

平成 26 年度（2014 年度）

箕面子どもステップアップ調査結果報告 （その 2）

- 箕面学力調査
- 箕面学習状況・生活状況調査

平成 27 年（2015 年）4 月

箕面市教育委員会

目次

箕面子どもステップアップ調査の概要	1
「箕面学力調査」「箕面学習状況・生活状況調査」について	6
箕面学力調査＜概要＞	9
箕面学習状況・生活状況調査＜概要＞	11
箕面学力調査＜概要＞国語	13
箕面学力調査＜概要＞社会	17
箕面学力調査＜概要＞算数・数学	21
箕面学力調査＜概要＞理科	25
箕面学力調査＜概要＞英語	29
箕面学習状況・生活状況調査＜概要＞	33

箕面子どもステップアップ調査の概要

1 「箕面子どもステップアップ調査」とは

国には、

○全国学力・学習状況調査

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査

があります。

箕面市では、国の調査の他、独自に以下の調査を実施しています。

○箕面学力調査

○英語能力判定テスト

○箕面体力・運動能力、運動習慣等調査

○箕面学習状況・生活状況調査

○学校生活アンケート

箕面市では、これら国の調査、箕面市独自調査のすべてを総称し、「箕面子どもステップアップ調査」と呼んでいます。

ステップアップ調査は、小中9年間を通して子どもたちの「学力・体力・豊かな心」をバランスよく育むため行うものです。

この調査により、毎年、子どもたち一人ひとりの各学年における学力・体力・生活の状況を把握・分析し、教員の指導力・授業力を高めるとともに、翌年度の各学年の指導・授業内容に反映させていくことにより、9年間を通して継続的かつきめ細やかに子どもたちの総合力の育成を進めます。

		実施時期	1年生 (小1)	2年生 (小2)	3年生 (小3)	4年生 (小4)	5年生 (小5)	6年生 (小6)	7年生 (中1)	8年生 (中2)	9年生 (中3)
学力調査	全国学力 学習状況 調査	4月						● 国語 算数			● 国語 数学
	箕面学力調査	12月	● 2教科	● 2教科	● 4教科	● 4教科	● 4教科	● 4教科	● 5教科	● 5教科	
	英語能力判定 テスト	2月								●	
箕面体力・運動能力、 運動習慣等調査 (★は全国調査に参加)		5～6月	● 3種目	● 3種目	● 3種目	● 5種目	●★ 8種目	● 8種目	● 8種目	●★ 8種目	● 8種目
生活 状況 調査	箕面学習状況・ 生活状況調査	6月、12月									
	学校生活 アンケート	10月、2月	●	●	●	●	●	●	●	●	●

2 報告の概要

この報告は、ステップアップ調査のうち、12月の実施した箕面学力調査、2月に実施した英語能力判定テスト、及び6月と12月実施した、箕面学習状況・生活状況調査の市全体の結果の概要を報告するものです。

なお、各学校の結果概要については、各学校の「ステップアップ調査概要」において、報告しています。

3 箕面子どもステップアップ調査内容

学 力 調 査

- ▶ 学年ごとに子どもたち一人ひとりの各教科の到達度を把握・分析し、子どもたち一人ひとりに応じた着実な学力の向上を図ります。
- ▶ 調査結果を活用し、各学年の年間指導計画を立て、継続性のある学習指導を行うとともに、教員の指導力・授業力の向上を図ります。

内 容

- | |
|---|
| (1) 全国学力・学習状況調査
[6年生(小6)] 国語 A・B、算数 A・B
[9年生(中3)] 国語 A・B、数学 A・B
問題Aは、主に知識・理解に関する問題
問題Bは、主に活用に関する問題 |
| (2) 箕面学力調査
各教科とも11月までに学習した範囲で、各学年における各科目の到達度を調査
[1～2年生(小1～小2)] 国語・算数
[3～6年生(小3～小6)] 国語・算数・理科・社会
[7～8年生(中1～中2)] 国語・数学・理科・社会・英語
なお、国語と英語は、リスニング(聞き取り)調査も実施 |
| (3) 英語能力判定テスト
[8年生(中2)] 英語検定 4 級レベルを実施 |

体 力 調 査

- ▶ 子どもたち一人ひとりの発達段階に応じた基本的な運動能力を調査し、基礎体力の向上を図ります。
- ▶ 日頃の運動習慣等を把握し、学校での様々な取り組みにつなげるとともに、家庭や地域と連携して課題の改善を図ります。

内 容

- | |
|--|
| (1) 箕面体力・運動能力調査
「全国体力・運動能力等調査」と同時に実施
調査種目
[1～3年生(小1～小3)] 立ち幅とび・50m 走・ソフトボール投げ
[4年生(小4)] 立ち幅とび・50m 走・ソフトボール投げ・反復横とび・20m シャトルラン
[5～9年生(小5～中3)] 立ち幅とび・50m 走・ソフトボール投げ(中学生はハンドボール投げ)・反復横とび・20m シャトルラン・握力・上体おこし・長座体前屈 |
| (2) 運動習慣、生活習慣等に関するアンケート調査
全学年で実施 |

生活状況調査

- ▶ 子どもたちの学習習慣、ご家庭や学校での生活状況をアンケート形式で調査し、自尊感情※などの向上及び学習課題や生活課題の改善を図ります。

内 容

- ・「自尊感情」等の自己認識、「規範意識」や「思いやり」等の社会性、学級環境、生活や学習の習慣等の調査
- ・「いじめ」に対する子どもたちの意識・状況も調査

※自尊感情…自分自身に対する肯定的な感情。自分で自分自身を価値ある存在だとする感情。

本市では、児童生徒一人ひとりの学力・体力・生活状況を継続的に把握し、教育指導の充実や学習状況・生活状況の改善にむけた取り組み結果の検証軸として、以下の指標と目標値を設定しています。

4 箕面市の指標と目標値に対する結果□

平成26年度(2014 年度)の目標値と結果

1	全国学力・学習状況調査の結果			目標値	箕面市	結果※
	＜指 標＞ 全国トップの都道府県の平均正答率	小学校	国語 A	77.4	75.0	●
			国語 B	67.3	57.9	●
			算数 A	85.1	81.0	●
			算数 B	66.2	60.9	●
		中学校	国語 A	84.4	80.6	●
			国語 B	55.9	52.7	●
			数学 A	74.3	71.5	●
			数学 B	66.9	63.7	●
2	全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙(肯定的回答率)			目標値	箕面市	結果※
＜指 標＞ 「いじめはどんなことがあってもいけないこと」	小学校	80%	96.7%	◎		
	中学校	80%	94.7%	◎		
3	＜指 標＞ 自尊心に係る質問項目の回答状況の平均	小学校	80%	83.3%	◎	
		中学校	80%	77.5%	●	
※ 下記、3 項目の回答状況についての平均値で求めています						
自分にはよいところがあると思いますか			小学校	80.0%		
			中学校	91.5%		
ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか			小学校	93.8%		
			中学校	70.4%		
難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか			小学校	76.1%		
			中学校	70.7%		

4	＜指 標＞ 英語能力判定テスト ～中2で英検 4 級程度 の力～		目標値 70%		68.2%	●
5	＜指 標＞体力・運動能力、運動習慣 等調査で全学年、全種目で全国平均 ■種目 (1)握力 (2)上体起こし (3)長座体 前屈 (4)反復横とび (5)20m シャトルラン (6)50m 走 (7)立ち幅跳び (8)ボール投げ ※小学校:ソフトボール ※中学校:ハンドボール ★男女別の集計ですので、各学年と も種目数は 2 倍になっています。	校 種	学 年	平均超の種 目数 ／全種目数	達成率	結果※
小 学 校		1 年 生	1／6	16.7%	●	
		2 年 生	2／6	33.3%	●	
		3 年 生	3／6	50.0%	●	
		4 年 生	1／10	10.0%	●	
		5 年 生	1／16	6.3%	●	
		6 年 生	3／16	18.8%	●	
中 学 校		1 年 生	5／16	31.3%	●	
		2 年 生	4／16	25.0%	●	
	3 年 生	6／16	37.5%	●		
6	箕面学習状況・生活状況調査 ＜指 標＞望ましい学級環境を示す 数値の平均値			目標値	箕面市	結果
7	学校生活適応状況 ＜指 標＞小4、中1、中 3 での不登 校(傾向)千人率	小学校		80%	76.7%	●
		中学校		80%	80.1%	◎
				平成 23 年度	平成 25 年度	結果
		抽出学年の平均		11.93‰	12.13‰	●
		小 4		4.09‰	4.13‰	●
		中 1		7.32‰	15.97‰	●
		中 3		24.4‰	16.3‰	◎

※結果の欄について、「◎」は目標達成、「●」は未達成を表しています。

※‰（パーミル）は 1000 分の 1 を 1 とする単位 1 ‰=0.001=0.1%

＜結果について＞

■ 全国学力・学習状況調査の学力調査と児童生徒質問紙の結果については、「箕面子どもステップアップ調査結果報告(その1)」で、まとめています。

■ 箕面学習状況・生活状況調査 ／ 学校生活適応状況調査

【結果】

(1) 小学校は「望ましい学級環境を示す数値」の目標値を上回ることはできませんでした。中学校では、僅かですが目標値を上回ることができました。個々の学級をみると、向上が見られるところもありますが、全体として目標を達成することはできませんでした。

※望ましい学級環境を示す数値は、箕面子どもステップアップ調査の「学級の規範意識」、「学級の絆」、「いじめのサイン」、「対人ストレス」などに関する質問項目の数値から算出しています。

(2) 平成 25 年度の学校生活適応状況の不登校傾向の割合は、小学校 4 年生では 4.13‰（平成 23 年度は、4.09‰）。中学校 1 年生では 15.97‰（平成 23 年度は、7.32‰）となり、ともに平成 23 年度より増加しています。しかし、中学校 3 年生においては、16.3‰（平成 23 年度は、24.4‰）になり、平成 23 年度より減少しています。小学校 4 年生、中学校 1 年生、中学校 3 年生を総合した数値では、増加しています。

【取組の経過】

分析で明らかになった課題については、各学校・各学級の子どもたちの実情に応じた取組を進めてきました。学級づくりにおいては、人権教育を大事にした研修や「箕面の授業の基本」を軸とした授業づくりを進めてきました。また、秋田県由利本荘市から箕面市の学校に訪問して頂き、授業づくりについて意見交流して教職員の指導力・授業力の向上に取り組んできました。

【分析】

「学級の規範意識」の調査において、そうじ当番や係の仕事に対する責任感を示す数値は、全国平均との比較では全ての学年で低い傾向にあります。社会的なルールを守る指導が不十分であったと考えられます。また、「学級の絆」においては、昨年度よりも数値が高まっており、個々の学級では課題がありますが、全体的には「学級の絆」が強まっていると言えます。学級のデータを分析し、継続した取組みの成果とも言えます。しかし、不登校傾向の割合は増加しており、だれもが学校やクラスが楽しいと思える学級環境をめざしていく必要があります。

【今後の取組】

調査結果の分析で明らかになった課題を焦点化し、その課題の解決のため具体的な目標を立て、達成のための指導内容や指導方法を全教職員で共有し、子どもたちにとって安定した望ましい学級づくりをめざしていきます。

■ 英語能力判定テスト

【結果】

中学2年生（7年生）を対象にした英語能力判定テストでは、68.2%が英語検定4級程度の力があるという結果になりました。目標値の70.0%には到達できませんでしたが、昨年度の58.0%よりも10ポイント以上向上しました。

【分析】

社会的に英語に関心が高まっていることが背景にあります。領域別で見ると「リスニング」の領域では、正答率が高い結果となっていてリスニング力がついていると言えます。一方、「読解」の領域では、他領域に比べ正答率にばらつきがあり、英語の読解に課題を抱える生徒の割合が高いと言えます。

【今後の取組】

英語においては、コミュニケーション力を高めることを目標に、平成27年度から小中学校全学年で毎日、英語の授業を行っていきます。小学校では、ゲームや歌などを取り入れた授業をとおして、英語に触れていきます。中学校では、英語コミュニケーション科をつくり、スピーチや会話に重点をおきコミュニケーション力を高めていきます。

「箕面学力調査」、「箕面学習状況・生活状況調査」について

1 調査の目的

- (1) 箕面市教育委員会は、市内の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校は、自校の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、児童生徒一人ひとりへの教育指導の充実や学習状況の改善などに活用する。
- (3) 箕面市教育委員会、学校は、上記(1)(2)の取組を通して、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 実施日

第1回箕面学習状況・生活状況調査

小・中学校 : 平成26年(2014年)6月11日(水)

箕面学力調査及び第2回箕面学習状況・生活状況調査

小学校 : 平成26年(2014年)12月16日(火)

平成26年(2014年)12月17日(水)

中学校 : 平成26年(2014年)12月24日(水)

平成26年(2014年)12月25日(木)

英語能力判定テスト

中学校 : 平成27年(2015年)2月4日(水)

3 調査対象

市内全公立小学校全児童及び、全中学校全生徒

4 調査内容

箕面学力調査

小学校1・2年生 : 国語、算数

小学校3～6年生 : 国語、算数、理科、社会

中学校1・2年生 : 国語、数学、理科、社会、英語

中学校2年生 : 英語能力判定調査(英検4級レベル)

箕面学習状況、生活状況に関する調査

自己認識、社会性、学級環境、生活・学習習慣等の諸側面等に関する内容

5 参加人数

第1回算面学習状況・生活状況調査

小学校	： 14校	7711 人		
中学校	： 8校	3238人	計	10949人

算面学力調査

小学校	： 14校	7692 人		
中学校	： 8校	2181 人	計	9873 人

第2回算面学習状況・生活状況調査

小学校	： 14校	7692 人		
中学校	： 8校	3104 人	計	10796 人

英語能力判定テスト

中学校	： 8校	1043 人		
-----	------	--------	--	--

6 公表の目的

本市の教育及び教育施策における子どもの学力向上の取組の成果と課題をできるだけわかりやすく、市民や保護者へ説明することにより、地域・家庭の方々の学校教育への理解と信頼を得るとともに、子どもの学力向上及び生活状況の向上に向けて連携した取組につなげる。

7 公表の方法

- (1) 本市の調査結果や分析結果については、平均正答率等を活用し文書等により説明する。
- (2) 学校間の過度の競争等につながるおそれのある個々の学校名を明らかにした公表は行わない。
- (3) 各学校においては、自校の調査結果や分析結果を文書等により保護者に説明する。

8 公表の手段

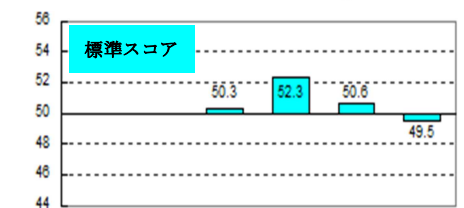
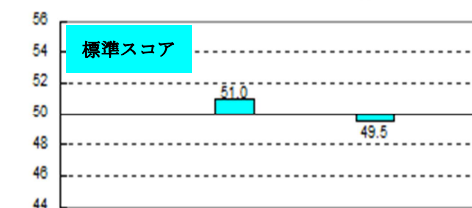
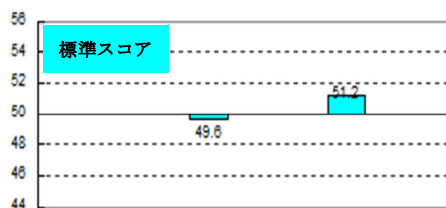
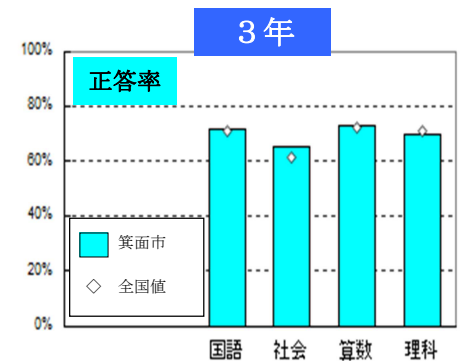
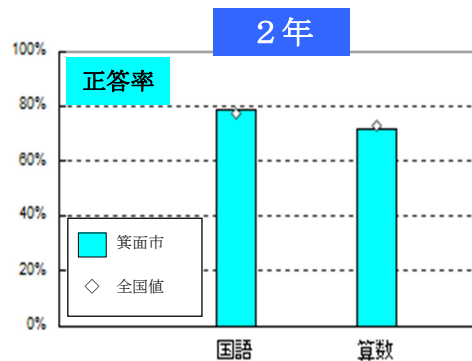
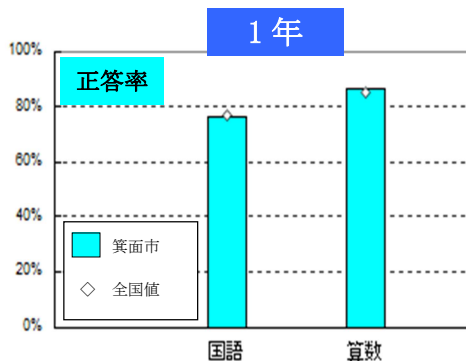
- (1) 教育委員会
 - ①教育委員会ホームページ
 - ②行政資料コーナー
 - ③豊川支所、止々呂美支所
 - ④市内公立図書館の資料コーナー
- (2) 各学校
 - ①「学年の概要」で説明
 - ②学校協議会、懇談会などで説明

箕面学力調査 〈概要〉

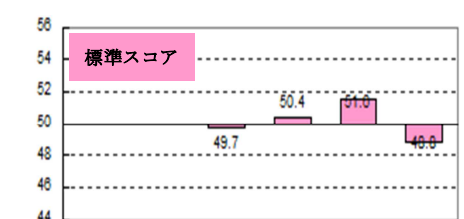
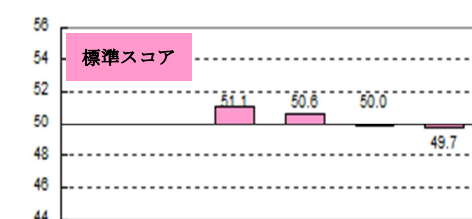
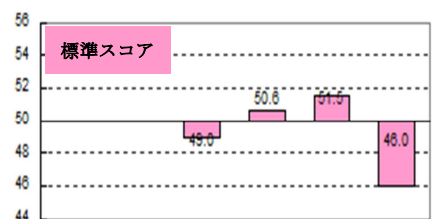
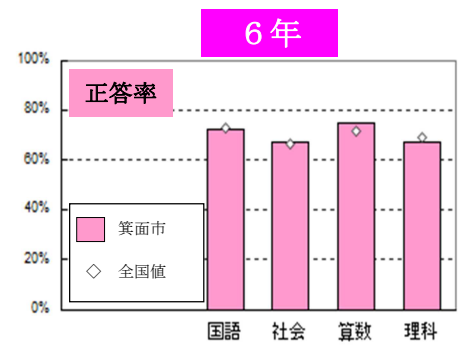
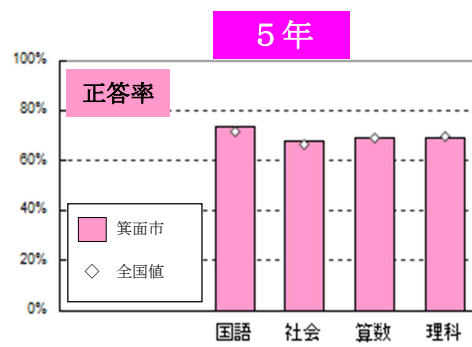
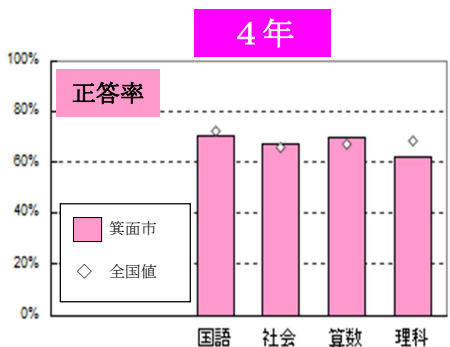
小学校 〈平均正答率の状況〉

教科	1 年		2 年		3 年			
	[国語]	[算数]	[国語]	[算数]	[国語]	[社会]	[算数]	[理科]
箕面市	76.5	86.5	79.0	71.9	71.4	65.5	73.2	70.0
全国値	77.2	85.0	77.7	72.7	71.0	61.6	72.2	70.8
標準スコア	49.6	51.2	51.0	49.5	50.3	52.3	50.6	49.5

「全国値」とは、委託業者が各都道府県あたり1校以上の学校に対して、同一問題のテストを事前に実施して、算出したものです。



教科	4 年				5 年				6 年			
	[国語]	[社会]	[算数]	[理科]	[国語]	[社会]	[算数]	[理科]	[国語]	[社会]	[算数]	[理科]
箕面市	70.3	67.1	70.0	62.3	73.7	68.0	69.0	69.4	72.4	67.3	72.4	67.2
全国値	72.2	66.2	67.1	68.7	71.9	66.9	69.0	70.0	72.8	66.6	72.8	69.4
標準スコア	49.0	50.6	51.5	46.0	51.1	50.6	50.0	49.7	49.7	50.4	51.0	40.0

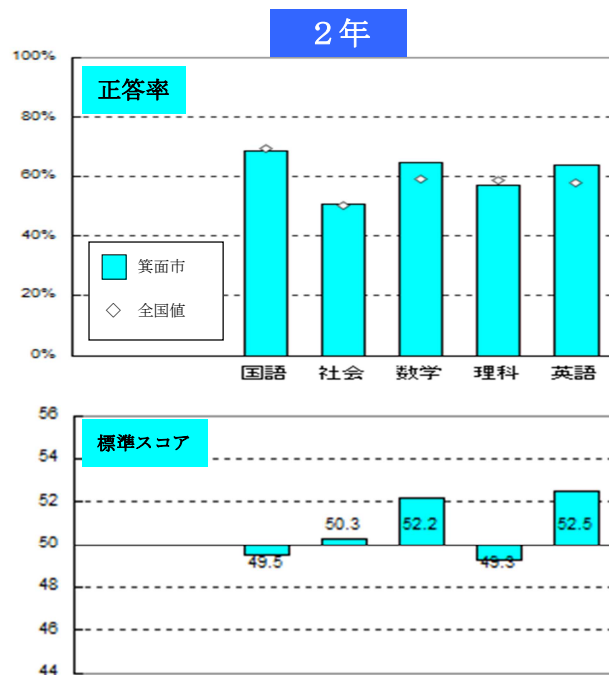
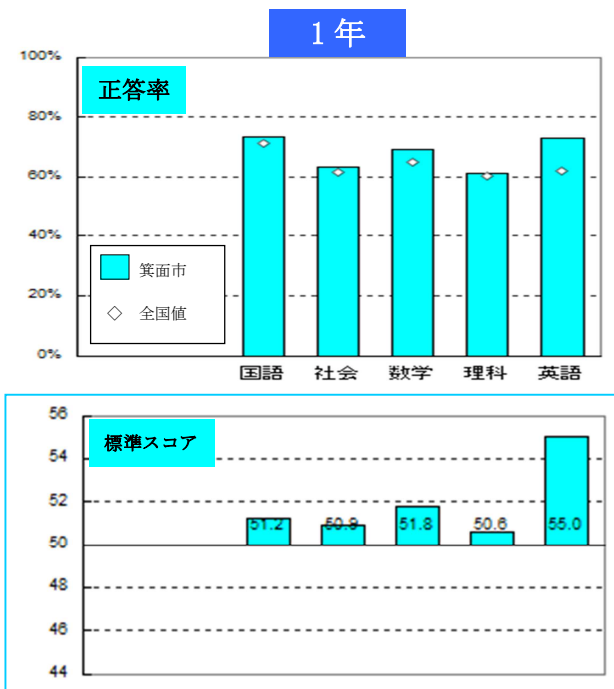


※標準スコアは、全国値の正答率を 50 としたときの換算値で、50 のラインを境に棒グラフが上に出ていれば相対的に良好であることを、下に出ていれば課題があることを示しています。

中学校 <平均正答率の状況>

	1年(7年)				
教科	[国語]	[社会]	[数学]	[理科]	[英語]
箕面市	73.3	63.4	68.9	61.2	72.9
全国値	71.3	61.7	64.9	60.1	61.9
標準スコア	50.8	50.7	53.4	52.2	54.7

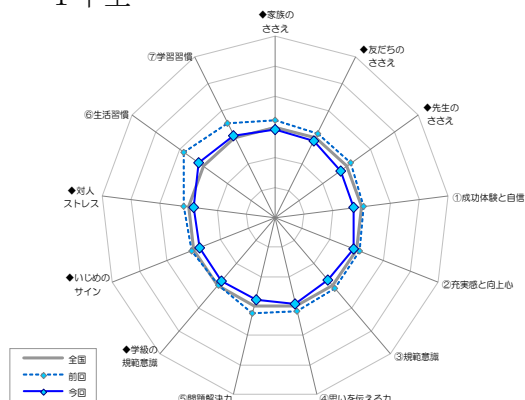
	2年(8年)				
教科	[国語]	[社会]	[数学]	[理科]	[英語]
箕面市	68.9	50.6	64.3	57.0	63.8
全国値	69.7	50.0	59.2	58.5	57.9
標準スコア	49.4	51.4	52.3	49.8	52.8



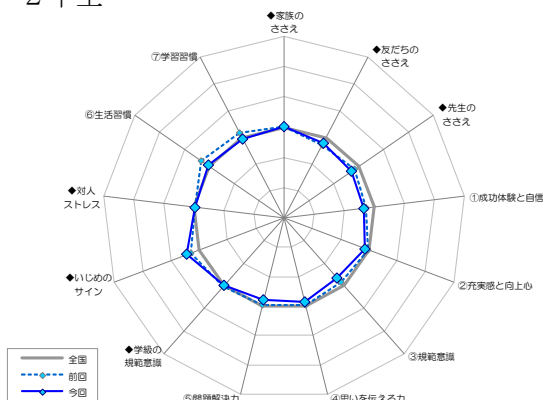
※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値で、50のラインを境に棒グラフが上に出ていれば相対的に良好であることを、下に出ていれば課題があることを示しています。

小学校

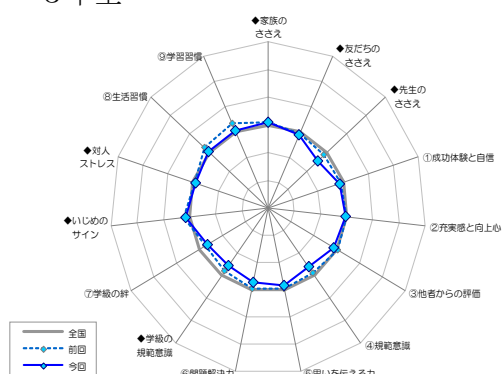
1年生



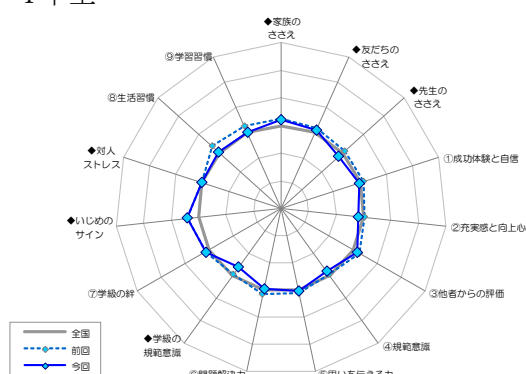
2年生



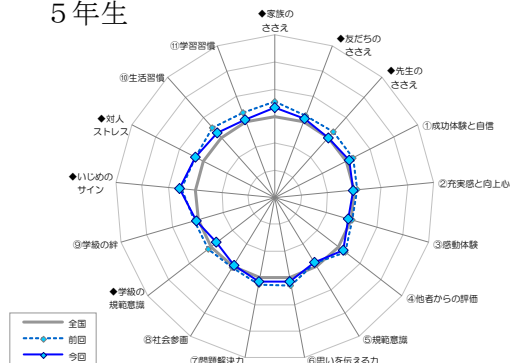
3年生



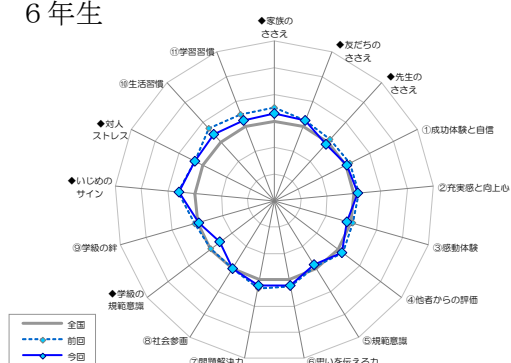
4年生



5年生

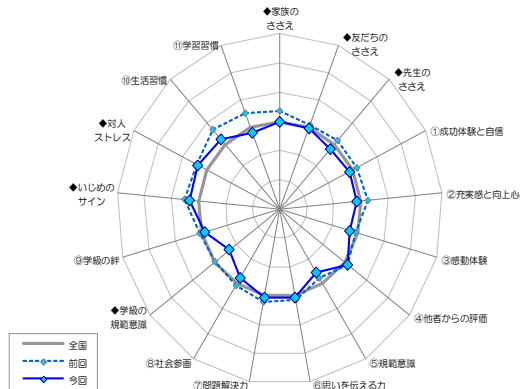


6年生

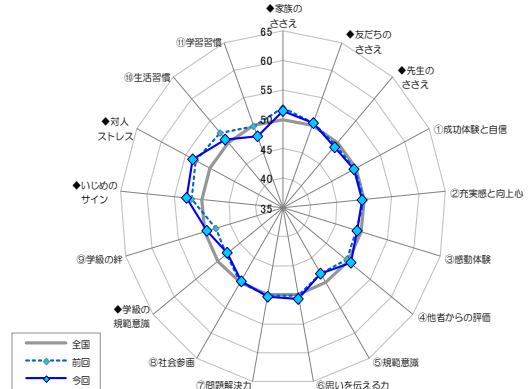


中学校

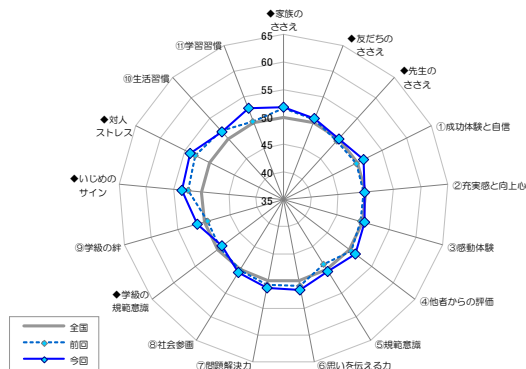
7 年生（中 1）



8 年生（中 2）

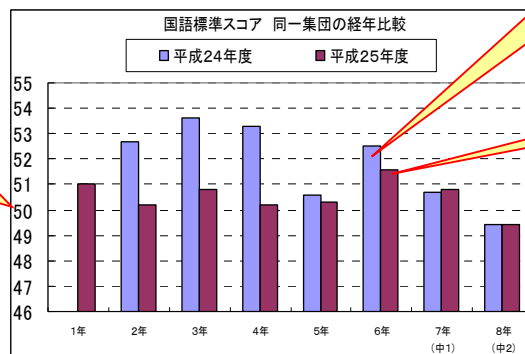


8 年生（中 3）



<グラフについて>

全国値の正答率
を 50 としたと
きの換算値。



この学年の昨年
年度の調査結果
（この場合は、5
年生時の結果）

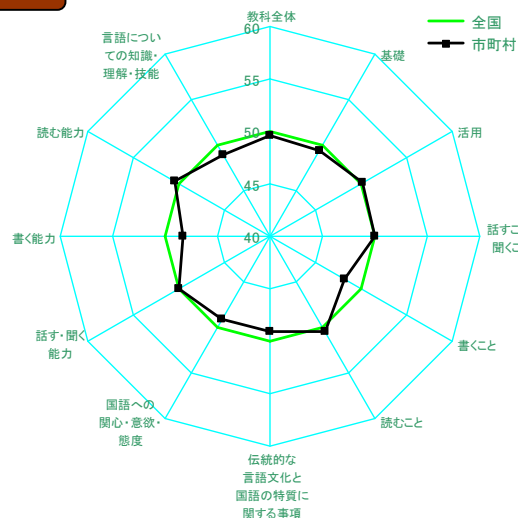
今回の調査結果

<学年表記について>

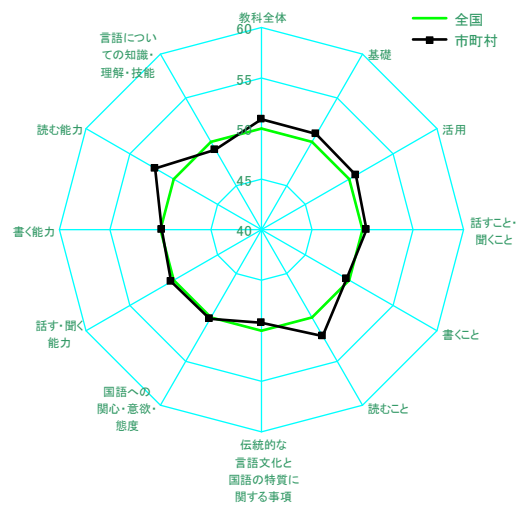
「1 年生」とは、小学校 1 年生であり、中学校 1 年生は、「7 年生（中 1）」と表記しています。

標準スコアによるカテゴリー間の比較

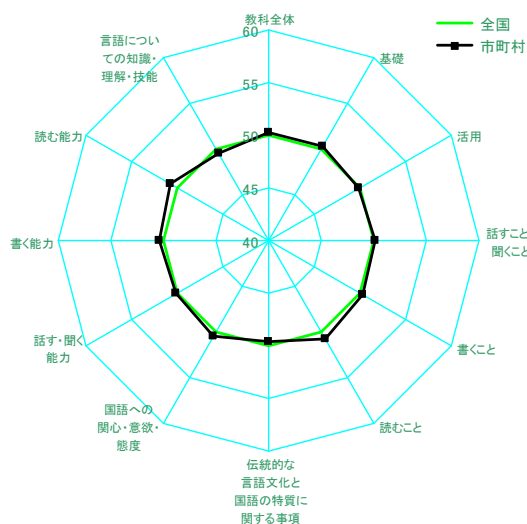
1年



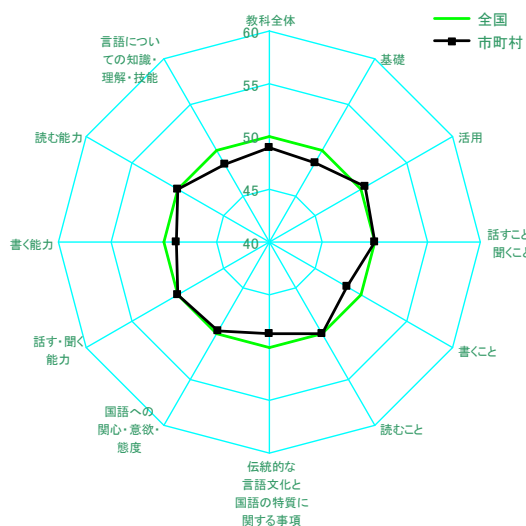
2年



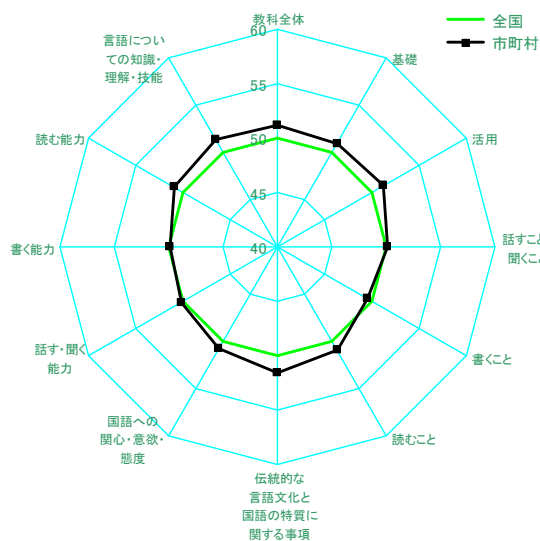
3年



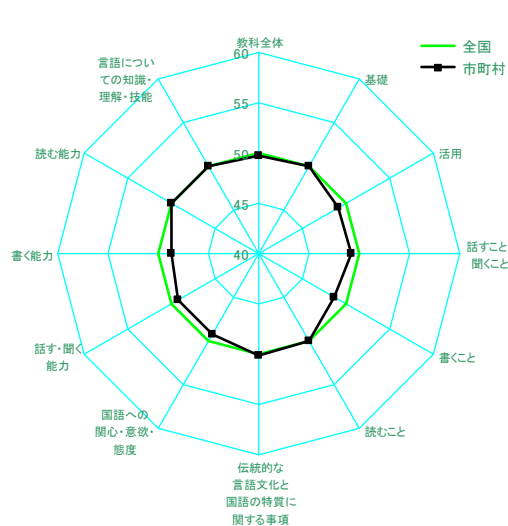
4年



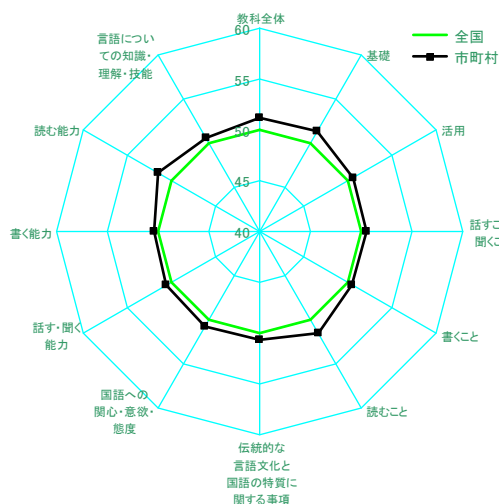
5年



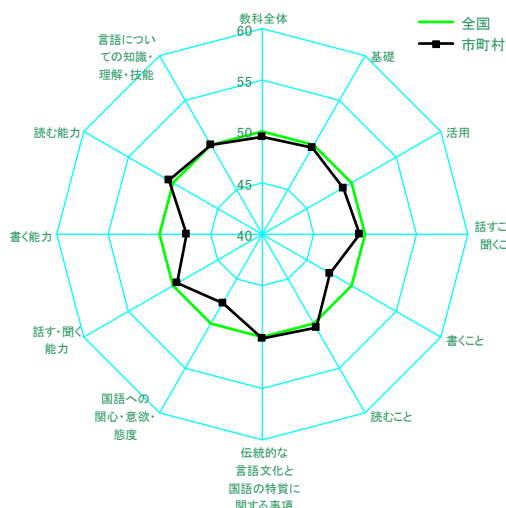
6年



7年（中1）



8年（中2）



- 書く力については、1年生、4年生、6年生、8年生で全国の正答率を下回っており、箕面市の大きな課題であると言えます。特に8年生が低くなっています。
- 1年生、2年生、4年生では言語についての知識・理解・技能が全国を下回っており、5年生以上は全国の上回っていますが、箕面市の課題の一つです。
- 7年生については、各カテゴリーともバランス良く全国を上回っています。

設問例から見てくると



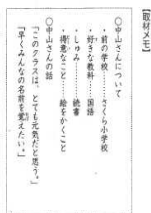
〇4年生

（書く能力を問う問題）

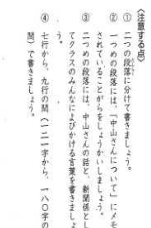
クラスの新聞係が転校生を紹介するために作成した「取材メモ」を基に新聞にのせる文章を書く問題です。

「注意する点」として、

- ① 二段落構成とすること
- ② 第一段落に「取材メモ」のこと
第二段落に転校生の話とみんなによびかける言葉を書くこと
- ③ 決められた字数内で書くこと
などの条件が設定されています。



取材メモ



転校生の話

〇8年生

（書く能力を問う問題）

生徒会が作った2種類のチラシを見て、どちらを配るとよいと思うかについて、文章で表現する問題です。

「注意する点」として、

- ① 三段落構成とすること
- ② 第一・第二段落にそれぞれのチラシの特徴を書くこと。
- ③ 第三段落に「あなたの考え」を書くこと
などの条件が設定されています。



小学校の問題では、①二段落構成とする条件に合わせて文章を書く問題が3年生以上でありました。どの学年も全国の正答率を下回っていますが、4年生は、特に全国より低い結果になりました。条件に合わせた段落で書く力を付けることが、中学校での書く力につながります。

中学校の問題では、条件に合わせて文章を書く問題に課題が見られました。条件の中で、正答率が低かったのが、②の「チラシの特徴を書く」という条件で、全国よりも低い結果でした。資料を見て、それを自分の言葉で説明する力を付けていく必要があります。

次年度のステップアップにむけて

「自分の考えを書く」だけでは
「書く能力」はつかないぞ！



国語科の学力向上の視点

「資料を読み取って書く能力」をつけるために

「書く能力」については、箕面ステップアップ調査でもこれまで継続的に課題として取り上げてきました。今年度の結果から、「書く能力」の中でも、特に「資料を読み取って書く」ことに課題があることが明らかになりました。こうした力を付けていくために、次のようなことに取り組んでいきます。

- 1 全ての教科で「資料を読み取って書く」活動を取り入れた授業を行う。
 - 資料を読み取って説明するという活動は、国語科だけではなく、どの教科でも取り入れることができます。
 - (例)・社会科…地図や年表から分かることをまとめる。
 - ・理科…実験から分かったことを文章にまとめる。
 - ・音楽科…鑑賞文を書く。
 - 「箕面の授業の基本」の「まとめ・振り返り」の場面で、その日の授業で分かったことを振り返って書くことも、こうした力につながります。
- 2 「抜き出し」や「穴埋め」ではなく、読み取ったことを「自分の言葉」でまとめるような活動を行う。
 - 授業で用いるワークシートや、授業中の発問についても、短い言葉や、抜き出しの言葉だけで答えられるものだけではなく、説明や要約が必要な問いにすると、「自分の言葉」でまとめる練習になります。
 - テストでも、論述問題を多く出題することによって、こうした力を付けることができます。
- 3 学び合いの中で、根拠を明確にして自分の考えを述べる習慣を付ける。
 - 「箕面の授業の基本」では、毎回の授業の中で「学び合い」の時間を設定しています。その際に、ただ自分の考えだけを述べるのではなく、「私は○○だと思います。なぜなら、○○ページに○○と書いてあるからです。」というように、根拠を明確にして話すような話型を提示しておきます。必ず根拠を示すようにすることで、根拠となる資料を読み取ることもつながります。

(まとめ)

- 「資料を読み取って書く能力」をつけるためには、資料の内容を理解した上で、「自分の言葉で説明する」活動を進めていきます。
- そのためには、日頃の授業の中で、記録・要約・説明・論述といった、言語活動を積極的に取り入れていきます。

算面学力調査〈概要〉社会

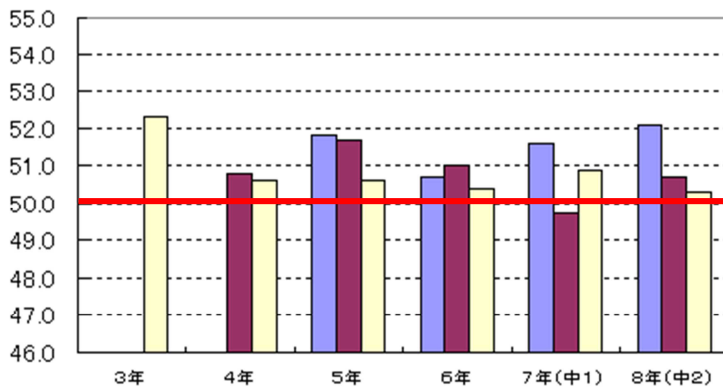
学年ごとの標準スコア

※標準スコア…全国値の正答率を50としたときの値のことです。



社会標準スコア 同一集団の経年比較

■ 平成24年度 ■ 平成25年度 ■ 平成26年度

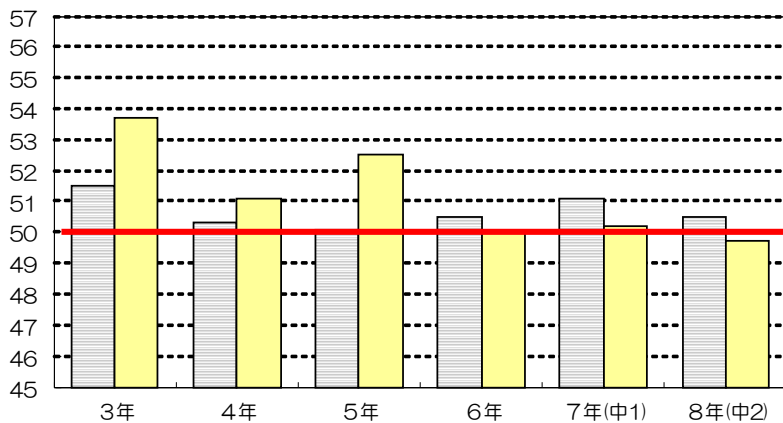


- 標準スコアで見ると、ほとんどの学年で全国値を超えているものの、同一集団の経年比較では、4つの学年で昨年度を下回る結果となりました。

基礎と活用(思考力・判断力・表現力)の状況

社会 基礎・活用標準スコア

■ 算面 基礎 ■ 算面 活用



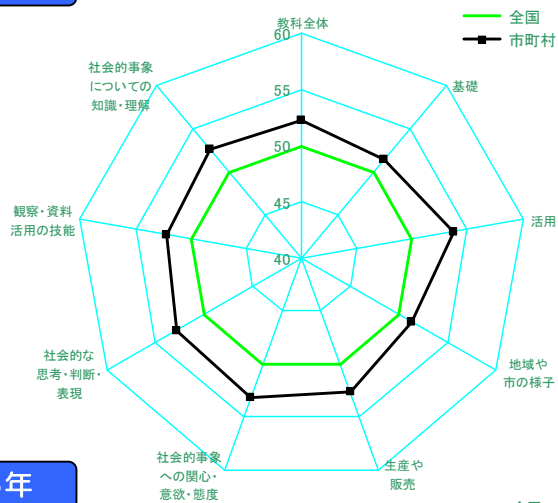
「算面の授業の基本」をもとに課題解決型の学習をいっそう進めていくことが必要ですね。



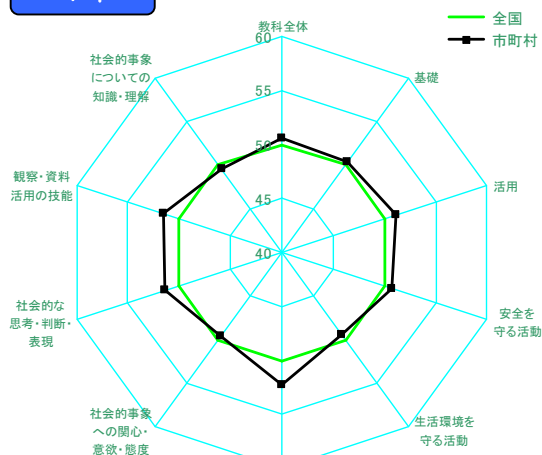
- 「基礎」は多くの学年で全国と同程度か、わずかに上回る状況が見られます。
- 「活用」は3・4・5年で全国平均値を上回っていますが、それ以降の学年では全国と同程度かやや下回る結果となっています。
- 「基礎」と「活用」を比較すると、5年までは「活用」が、6年からは「基礎」の方が標準スコアが高くなっています。

標準スコアによるカテゴリー間の比較

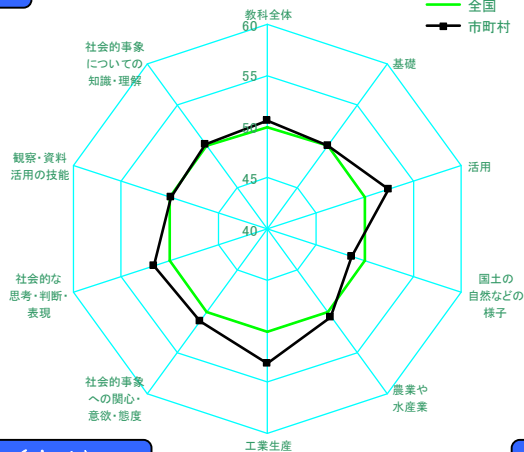
3年



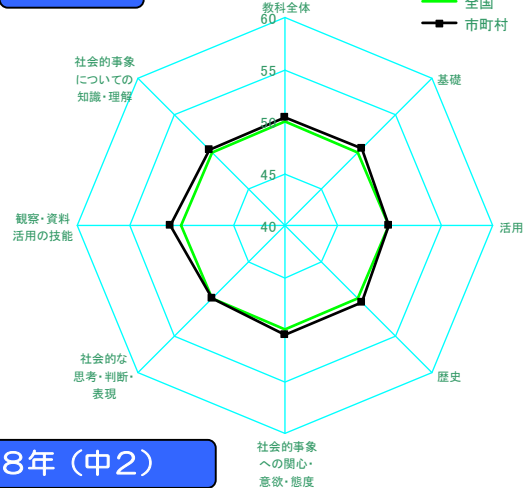
4年



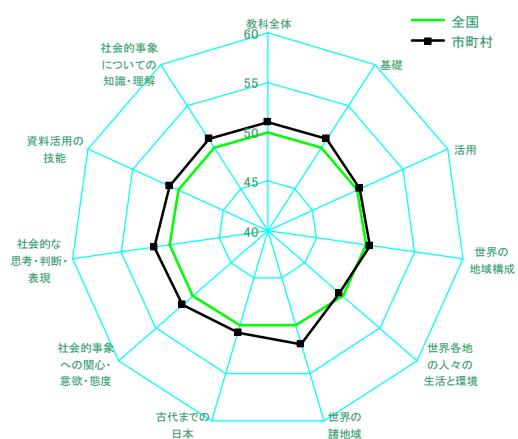
5年



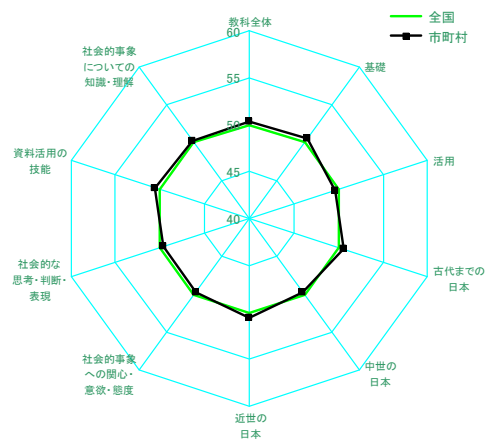
6年



7年(中1)



8年(中2)



3年…活用の力が高い

4年…先人の働きの項目が高く、生活環境を守る活動の項目に弱さが見られる

5年…国土の自然などの様子の項目が低い（昨年同傾向）

6年…どの項目も全国の平均値と同程度である

7年…世界の諸地域について比較的高い

8年…どの項目も全国の平均値と同程度である



設問例から見てくこと

○小学校5年 国土の自然などの様子

1年間の気温と降水量を表したグラフを見て、地図中の1～4のうちの、どの場所の気温と降水量をあらわしたものかを選んで答える問題

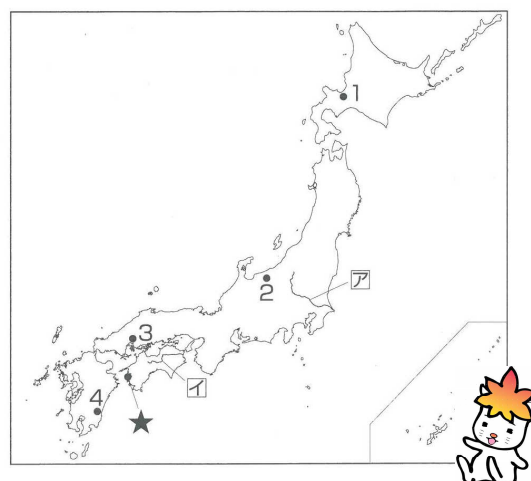
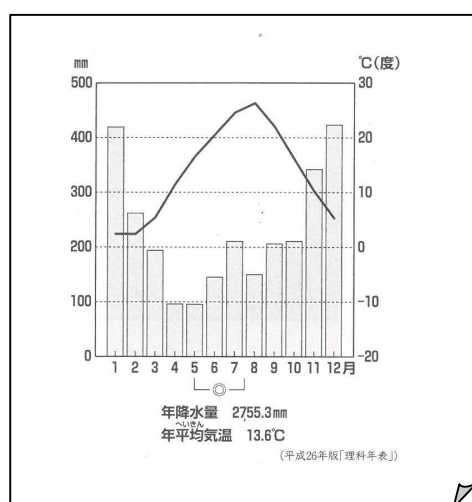
学習した内容を関連づけて活用できる力が課題

①グラフの値が示す状況や、全体的な傾向を読み取ることが大切です。

降水量が、1月や12月に多い。・・・雪国である。

気温は、夏は28度、冬は3度くらいなので、それほど寒くもなく、暑くもない地域である。

②日本地図を見て、1～4の地域がどのような気候なのかその特徴を知っている必要があります。



本市の5年生の正答率は全国値を上回っていますが、この単元だけ下回っており、グラフや地図唐読み取ったことを関連づけることができる力が必要です。

○中学校2年 近世の日本

下記のア～ウは、1641年に鎖国の体制が固まるまでに起こったできごとである。年代の古い順に並べた問題。

- ア 島原・天草一揆が起こる
- イ 日本人の海外渡航、帰国が禁止される
- ウ ポルトガル人が追放される

社会的な思考力・判断力の育成が課題

上記の2問では、様々なデータやできごとをつなぎ合わせて理解することを問われています。それぞれの知識を単なる点として記憶するのではなく、データや出来事の特徴や因果関係などを自分自身で考え表現することで、思考力や判断力を高めつつより深い理解を促すことが課題です。

次年度のステップアップにむけて

社会科の学力向上の視点

「わたしたちのまち箕面」は学習資料として作成されています。

3, 4年生でも教科書を主に活用し、学習指導要領のねらいを実現しましょう。



社会的な思考力・判断力・表現力の育成

1 児童生徒に「問い」を発させる授業づくり →なぜだろう どうなっているかな

- ① ねらいにせまる「問い」を児童生徒から引き出すための導入資料や主発問を工夫します。
- ② 児童生徒の「問い」を生かした学習問題の設定や問題解決的な学習を充実させます。

2 社会科の観察・資料活用の技能の育成のポイント →比較、関連付け、総合化

- ① 理科や算数などでの図、表、グラフを扱った学習と関連付け指導します。
- ② 教科書、地図帳、資料集を組み合わせることで繰り返し活用していきます。
- ③ 課題に合った資料を、児童自らが取捨選択する場面を設定します。
- ④ 読み取った内容に多角的・多面的に考察を加え、傾向や意味を見出す学習を設定します。
- ⑤ 資料から読み取ったことをもとに意見が交換できるよう話し合いの場面を設定します。
- ⑥ 調べたことをもとに自ら資料を作成することで、資料の有用性、着目すべき点を体感する場面を設定します。

3 社会的な思考・判断・表現力の育成のポイント

→キーワードは学び合い！ 説明、論述、議論

- ① 資料から読み取ったこと（事実）と読み取ったことをもとに考えたこと（解釈）とを明確に分けて記録したり伝達したりすることが大切です。
- ② 社会的な事象を原因や影響といった因果関係にまで及んで結び付けてまとめます。
- ③ 資料を根拠として考えを交流し議論します。

4 各時間及び単元末のふりかえりを重視

- ① 自らの生活や問題意識と結びつけます。
- ② 自らの思考を客観化し、自分の考えの変容を文章で記述します。

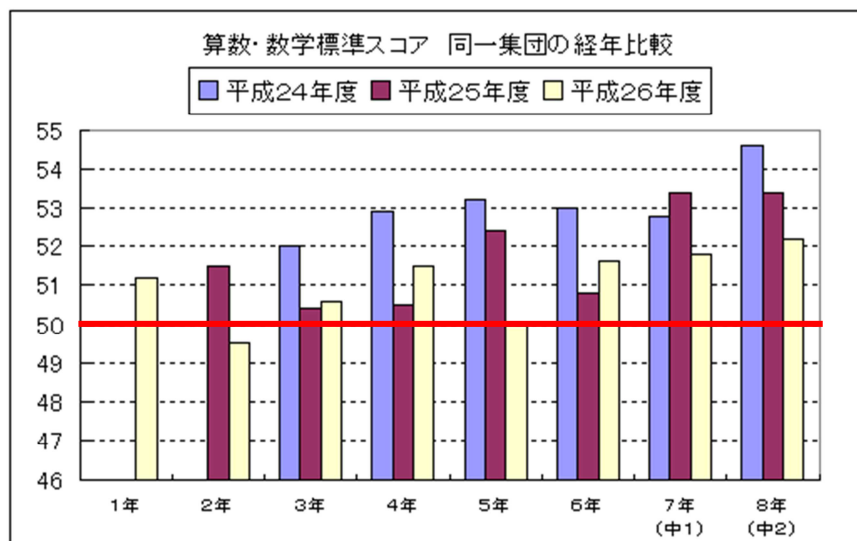
■小・中学校の社会科の目標は、「国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」ことです。この実現に向け、「この社会の中で、自分はどのように生きていくか」という問いを主体的に追究し、実現する力を育てることが求められます。3年では身近な地域を対象に学習しますが、学年が上がるにつれ扱う情報量が増え、日常生活で意識しづらい分野へと移行していきます。だからこそ、学習と生活の接点を意識し、知識を活用する場面を位置づけた学習の必要があります。

算面学力調査〈概要〉算数・数学

※標準スコア…全国値の正答率を50としたときの値のことです。

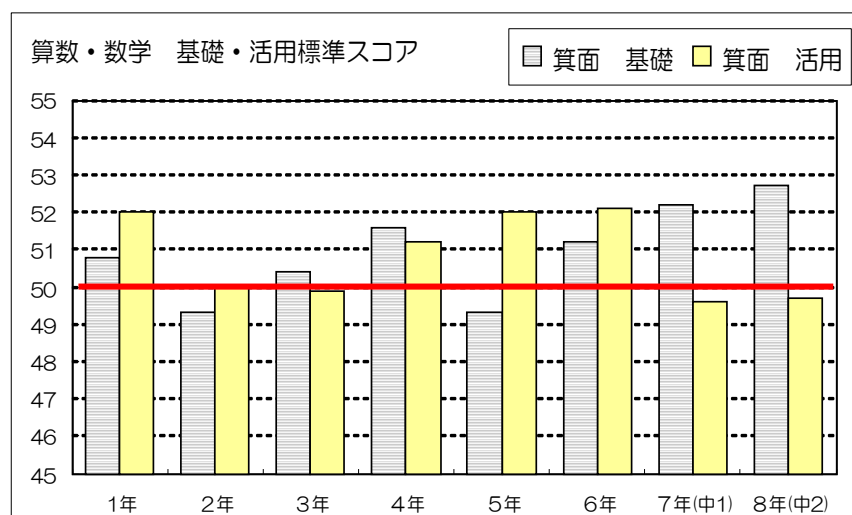


学年ごとの標準スコア



- 4年生、6年生が、昨年度と比較して大きな伸びを見せています。
- 2年生、5年生、7年生、8年生については、昨年度と比較して大きくスコアを下げています。
- 2年生、5年生以外の学年については、全国の正答率を超えています。

基礎と活用(思考力・判断力・表現力)の状況



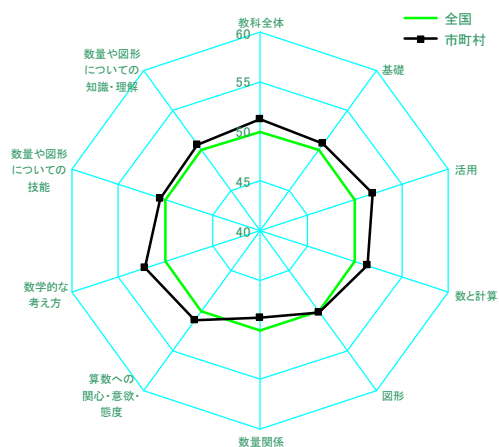
中学校では、「活用」を伸ばしていく必要があるね。小学では、「基礎」の低い学年があり課題ですね。



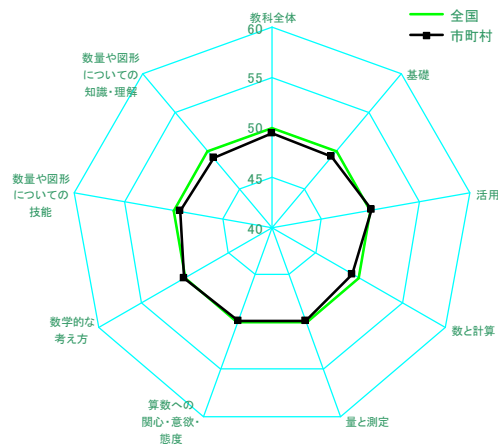
- 算数では、「活用」がおおむね全国平均値を上回っていますが、中学生になると全国平均を下回っています。
- 小学2年生と5年生では、「基礎」が全国平均より低いことがわかります。

標準スコアによるカテゴリ間の比較

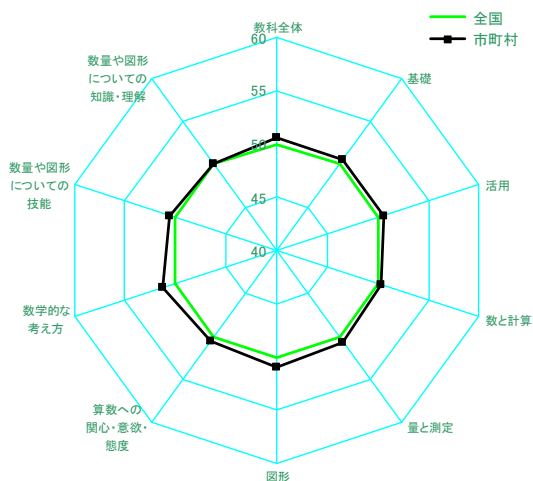
1年



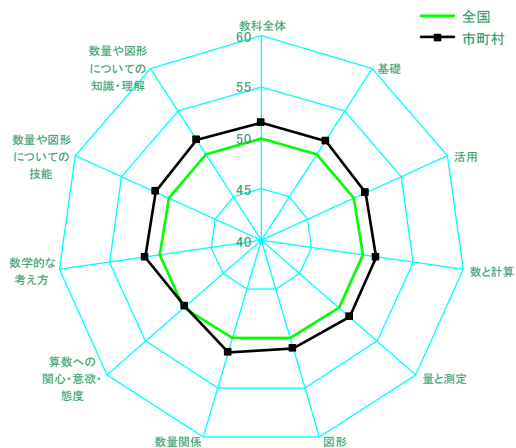
2年



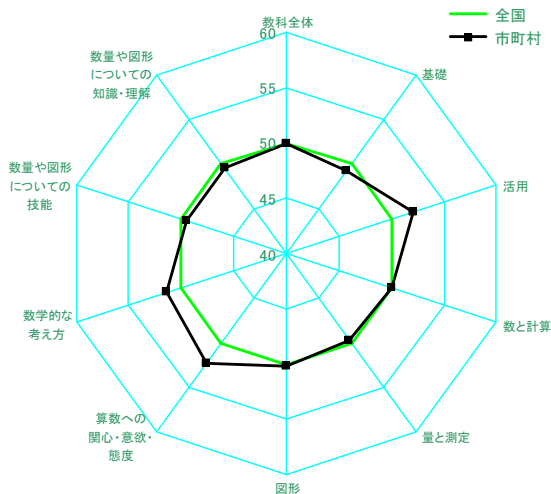
3年



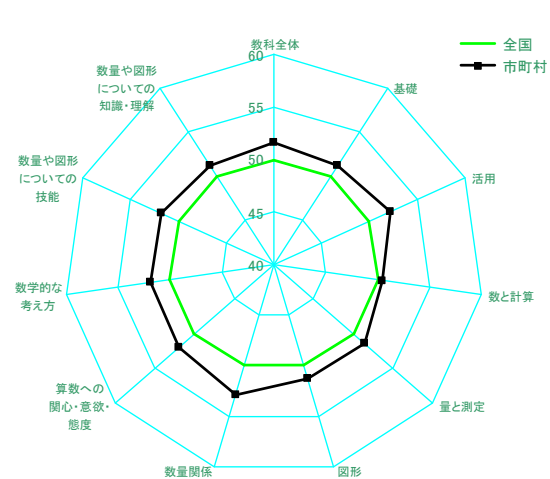
4年



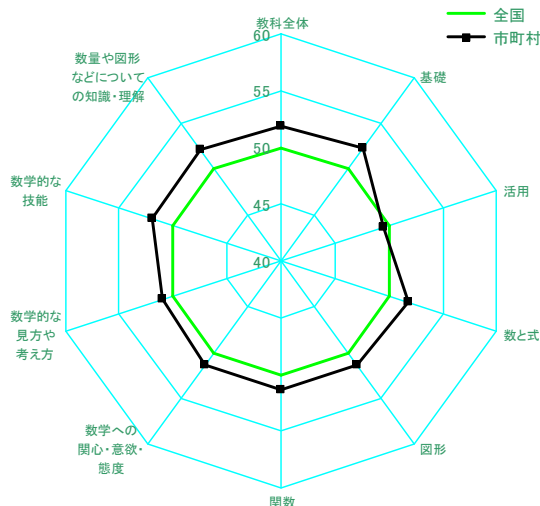
5年



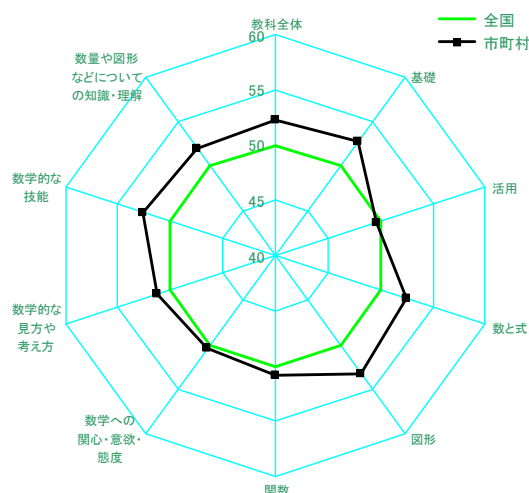
6年



7年（中1）



8年（中2）



- 小学1年生、3年生、4年生、中学1年生、2年生では、すべての領域の数値が概ね全国平均値より高い結果となりました。しかし小学2年生や小学5年生では、概ね半分の領域で全国平均値より低い結果となっています。特に「数量や図形の知識理解・技能」の数値が全国平均値より低い結果となっています。
- 小学5年生、6年生では、全領域の中で「活用」が特に高い結果となっています。逆に中学1年生、2年生では、全領域の中で「活用」が低い結果となっています。

設問例から見てくると

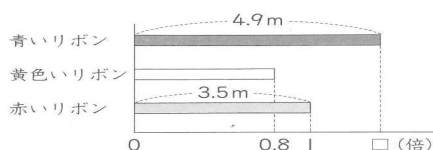
左が基礎的な問題で、右が活用力を問う問題だよ。



小学5年生 問題 ⑧

赤いリボンの長さをもとにして青いリボンと黄色いリボンの長さを表すと下記の図になります。黄色いリボンの長さを求める式はどれですか。 ① $3.5 - 0.8$ ② 3.5×0.8
③ $3.5 \div 0.8$ ④ $0.8 \div 3.5$

正答 ②



中学2年生 問題 ③

二人の人物が、蛍光灯とLED電球を同じ時間使用したときの総費用の安さを比べています。二人の会話(省略)を記した文章の内容が正しいかどうかを比例グラフ(省略)や下記の表から判断して選択します。さらに、そう判断した理由を説明するという問題です。

蛍光灯とLED電球の比較

	蛍光灯	LED電球
およその寿命	6000 時間	40000 時間
本体の価格	1200 円	3000 円
1 時間あたりの電気料金	0.22 円	0.15 円

基礎をしっかりとおさえ、思考力・判断力・表現力の育成が必要

算数・数学で扱う問題は、日常で起こることと結びついています。左の問題では、「 $3.5 - 0.8$ 」とした誤答が多かったようです。各計算の意味をしっかりと理解することで解決につながります。右の問題では、「表で示された x と y の関係を式で表す」だけの問題であればより高い正答率であったと予想されます。ここではさらに、比例グラフの2直線の交点が表す座標の意味を考える必要があります。それを理解した上で文章で説明する必要があるため、思考力・判断力だけでなく表現力も求められます。

次年度のステップアップにむけて

算数・数学科の学力向上の視点

日頃からの積み重ねが大事ですね。



『 基礎をしっかりとおさえ、思考力・判断力・表現力を育成します 』

1 「解いてみたい」と思える課題のある授業づくりを行います。

- 子どもにとって、問題を解決する必然性を感じるような問題設定を行います。
- 日常生活につながるような課題設定をしていきます。
- 児童生徒の「なぜだろう」「どうなっているかな」という疑問や問いを活かした展開を工夫します。

2 見通しを持った、自力解決の力を育みます。

- これまでの問題との共通点、相違点を整理する力を育みます。
- 以前に用いた図、表、式などを使い考えることで自力解決する力を育みます。

3 学び合いで表現力を伸ばします。

- 学習場面では、「問いに対して答えを出すこと」「正答か誤答か」とらわれがちです。しかし、思考力・判断力・表現力を高めるためには、問いへの答えを考える過程が重要になります。問題の解き方や考え方を友達と伝え合うことで、分からない点が明確になることや新たな考えが生み出されることもあります。考えを深め合い、それを言葉にしていくがとても重要になります。理由や根拠を明らかにして、どんな相手にも分かるように説明できる力は、学習だけでなく生活のあらゆる場面で活かすことができます。

4 ふりかえりを大切にします。

- 児童生徒が、授業を振り返ることで理解がさらに深まると同時に、理解できていない課題点を認識することで、自己理解を深めることができます。授業者も課題点を把握することで、基礎をしっかりとおさえしていくことにつながります。
- 単元の終わりには、単元を通じて身につけた考え方をふりかえり、学習の成果を自らの生活や問題意識と結びつけていきます。自らの成長を見つめることが、学ぶことの動機づけにもつながります。

《 言語活動の充実をめざして 》

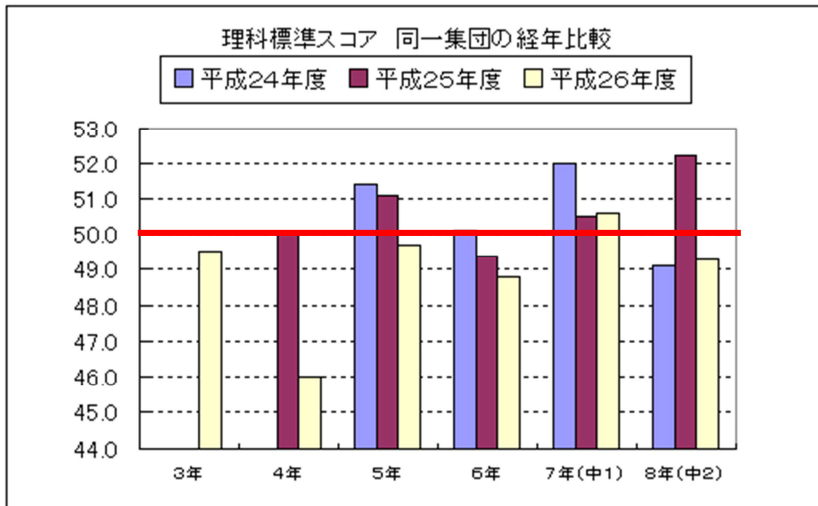
- 思考力、判断力、表現力を高めていくために、言語活動を多く取り入れた授業ができるように授業改善を進めていきます。言語活動を「いつ、どのタイミングで、どのように行うのか」を考えて取り入れて行く必要があります。

箕面学力調査〈概要〉理科

※標準スコア…全国値の正答率を50としたときの値のことです。

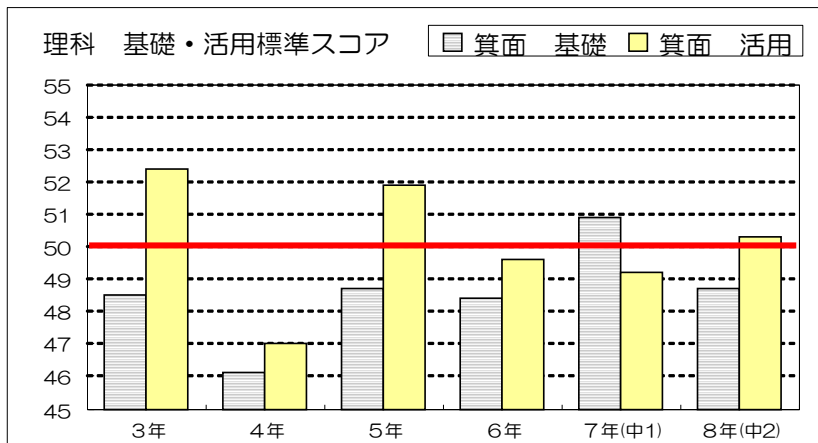


学年ごとの標準スコア



- 7年生（中1）は、3年連続全国平均を上回っています。
- 4年生は、昨年度に比べて4ポイントほど全国を下回っています。
- 4～6年生が低下傾向にあります。

基礎と活用(思考力・判断力・表現力)の状況



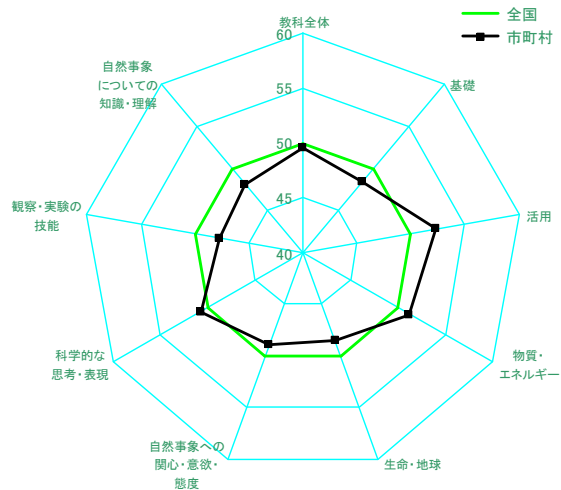
7年生以外の学年は「基礎」が低いことがわかるね。問題は、教科書をもとに学習した内容で「基礎」を測っているよ。



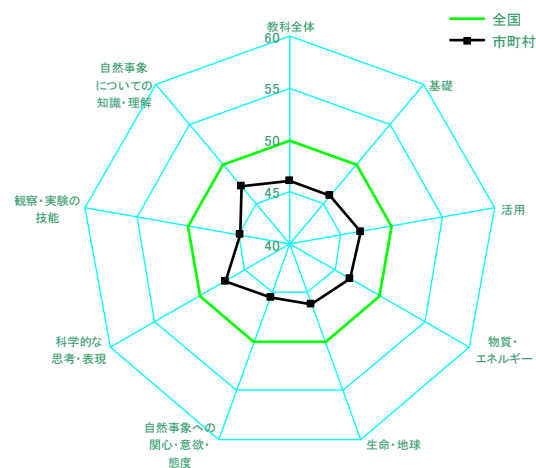
- 基礎は、7年生（中1）で全国平均を超えており、他の学年は全国を下回っています。4年生については、他学年に比べるとかなり低めです。
- 活用は、3年生、5年生、8年生（中2）で全国平均を超えていますが、その他の学年では、全国平均を若干下回っています。4年生については、他学年に比べるとかなり低めです。

標準スコアによるカテゴリ間の比較

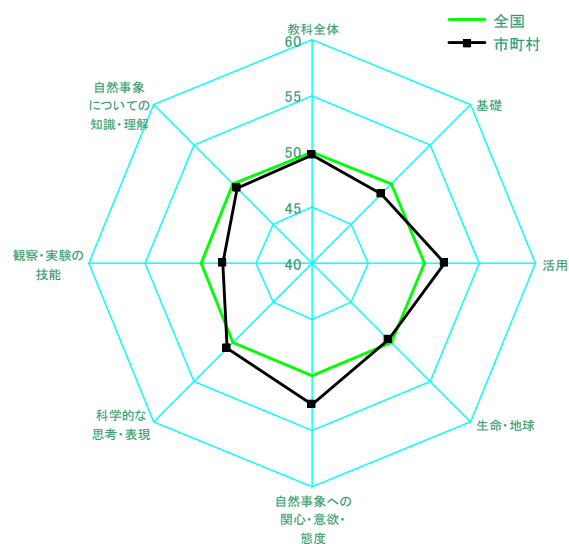
3年



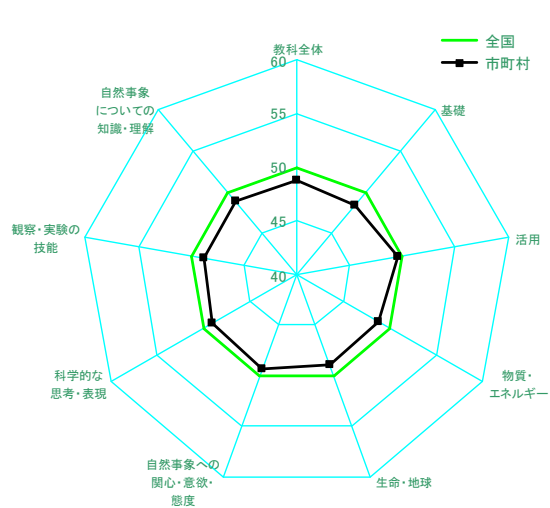
4年



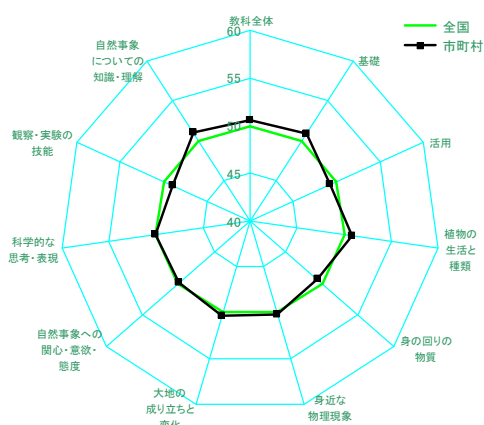
5年



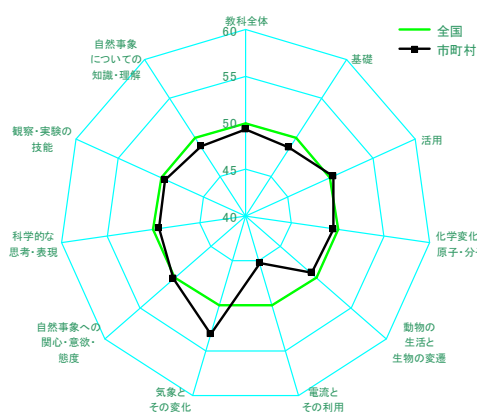
6年



7年 (中1)



8年 (中2)



●4年生、6年生が全ての観点において全国平均以下でした。

●「観察・実験の技能」について、全学年で課題が見られました。

●8年生（中2）は「電気とその利用」について、大きな課題が見られました。

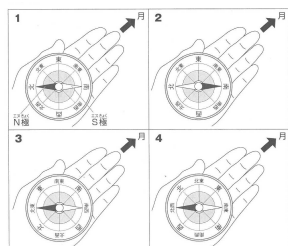


設問例から見てくると

正答率が低かった「方位磁石の使い方」を解答する問題です。

「満月の観察をするとき、方位磁針を使って月が見える方位を調べます。正しい使い方はどれですか。」

正解は1です。



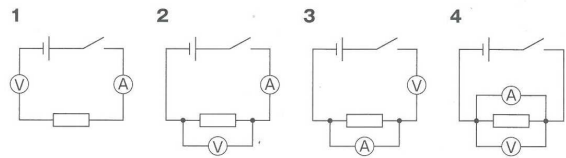
正答率が高かった活用問題です。

学習したことを活かす問題です。流れる水の働きがわかっていたので、災害を防ぐこのブロックの役割について説明することがていしました。



正答率が低かった問題です。

この実験を行ったときの回路を回路図で表したものを次の1～4で1つ選びなさい。



普段から、実験などを自分の課題として取り組んでいると、どれが正解か分かる問題です。

正解は2です。

学習のなかで実験・観察を主体的に取り組むことが大切だよ。



●主体的に観察・実験に取り組むことが課題

「実験・観察」は理科の学習にとって、とても大切なものです。そのときに、「仮説（自分の考え）」を持って取り組んでいくことが必要になります。結果と仮説（自分の考え）とを比較することによって理解が深まっていきます。「実験・観察」を作業にするのではなく、意味のあるものにしていきましょう。

●理科の教具の使い方、用語を正しく理解し、自分の考えたことを表現する力の育成が課題

正しい測定の仕方や調べ方、星座早見・方位磁針など理科の教具の使い方などを正しく理解し、観察や実験をおこない、自分の言葉で観察結果や考察をまとめることが大切です。

次年度のステップアップにむけて

理科の学力向上の視点

学習したことを実生活や身近な自然事象と結び付けることが大切なんだね。



子どもが主体的に解決していく学習活動をおこないます。

・「なぜ?」「不思議!」に出合わせる学習指導の充実

児童生徒一人ひとりが自然・科学の事象に対して、問題解決を「自分事」として捉え、多くの体験活動をふまえた理科の学習を進めることができるようにしていきます。

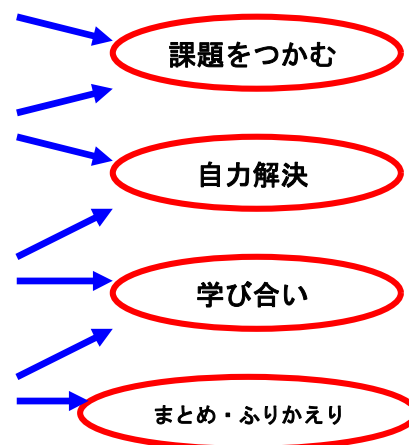
【主な学習の流れ】

①まずは子どもたちと自然との出会いを大切にしていきます。

②体験活動のなかで、子どもたちの中から「なぜだろう?」という疑問、課題が表れてきます。課題の解決に向けた予想や仮説を立てていきます。

③予想や仮説を検証するため、子どもたちは目的がはっきりとした実験、観察を主体的におこないます。

④実験、観察の結果の整理、考察をおこない課題の解決につなげます。



・実際に教具に触れ、使い方、用語を正しく理解できる学習指導の充実

理科では多くの教具に出合います。実際に子どもたちの手に触れたうえで、用語を確認し、使い方に慣れさせ、実験・観察をおこなうように指導していきます。主体的に取り組むことで学習したことの定着を図っていきます。

・既習の科学的な言葉や概念を使用する機会の充実

3年の「電気の通り道」で学習した「回路」という科学的な言葉が、4年の「電気のはたらき」、5年の「電流の働き」、6年の「電気の利用」、そして、8年生の「電気とその利用」の学習において、既習事項を繰り返し登場させる学習機会を増やして理解を深めていきます。

(まとめ)

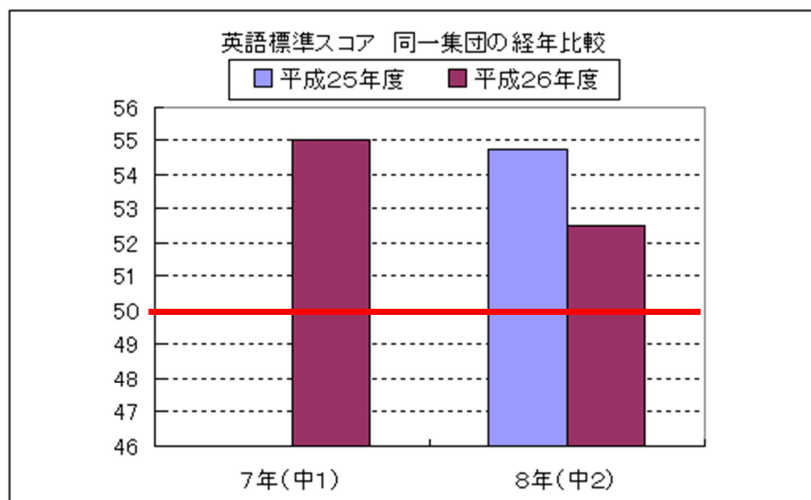
■ 自然と出合う体験活動を通してどんなことに気づいたか（実感を伴った理解）、「おや、何でだろう?」と子どもの声を出させる、みつけさせる（子どもから問いを出させる）学習活動を大切に理科学習をおこなうことが必要です。

箕面学力調査〈概要〉英語

※標準スコア…全国値の正答率を50としたときの値のことです。



学年ごとの標準スコア



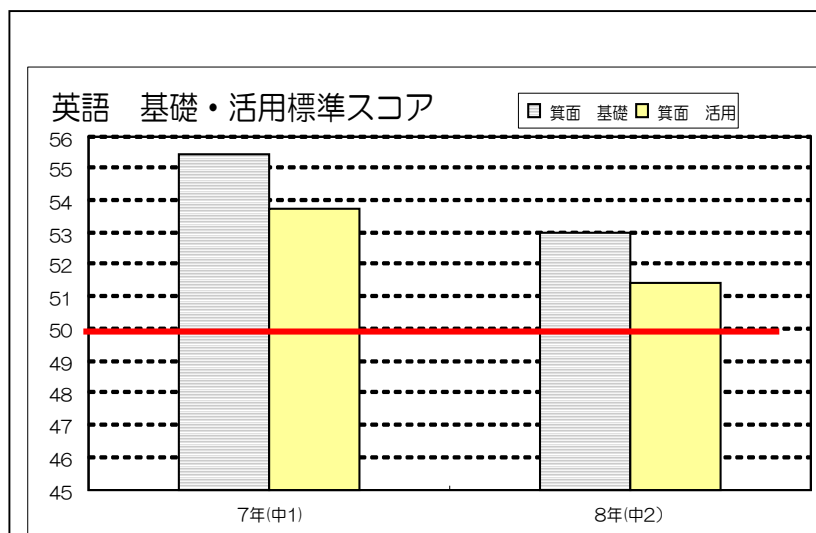
箕面市の生徒の英語力は、以前から高学力傾向にありますが、今年度も同様の傾向にあります。

●7年(中1)は、良好な結果で全国平均値より5ポイント高くなっています。

●8年(中2)は、1年次に比べて、少々下降しました。

●現7年(中1)は、現8年(中2)の1年次の学力とほぼ同程度であることがわかります。

基礎と活用(思考力・判断力・表現力)の状況



英語では、聞くこと(listening)、読むこと(reading)で、思考したり、判断して、書いたり(writing)、話したり(speaking)するので、活用力は、最終的に表現力に重点が置かれます。これが教科の特徴です。

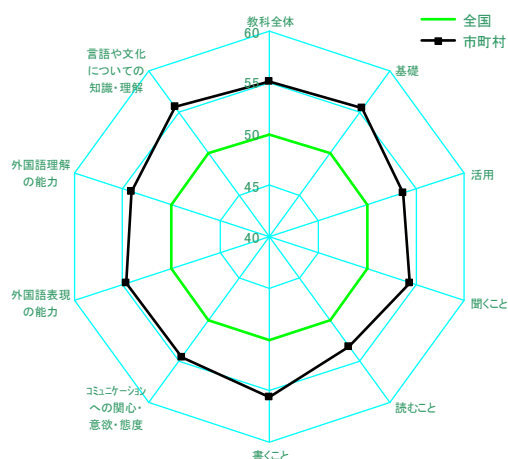


●7年においては、全国との関係で見たとき、「基礎」が5ポイント以上高くなっています。「活用」は4ポイント近く高くなっており、「基礎」よりも「活用」が低くなる傾向にあります。

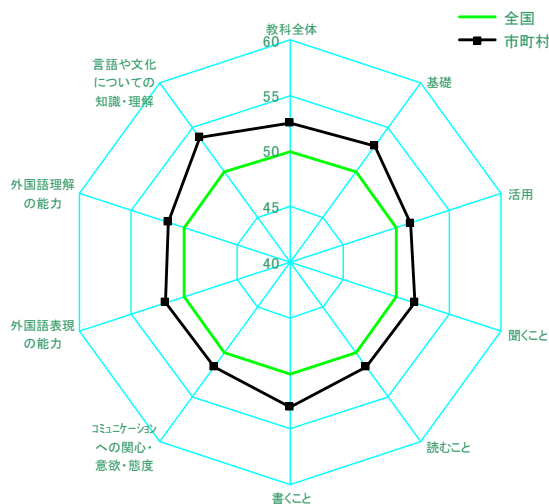
●8年でも、「基礎」よりも「活用」が低くなる傾向にあります。

標準スコアによるカテゴリ間の比較

7年（中1）



8年（中2）



●7年（中1）・・・全体的にのほぼバランスがとれており、良好であるといえます。昨年度の中1は「書くこと」が若干低くなる傾向がありましたが、今年度は書く力が育っています。一方で、「読む力」をもう少し伸ばす必要があります。

●8年（中2）・・・全国の状態よりは、すべて上回っており、「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」について、バランスよく力をつけています。しかしトータルで見たとき、それぞれの力をもう少しずつ高めていく必要があります。また、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」は、英語を使って臆せず外国人と対話したり、自分の考えを英語で表現する態度につながりますので、今後の箕面市の英語教育では、とくに重点的にその経年比較を追っていく必要があります。



設問例から見てくると

●7年生（中1）

「相手のお姉さんの名前をたずねるとき、どのように英語で表現すればよいか」を3語以上の英文1文で答える問題で課題が見られました。無答率が13%あり、また、文型を組み立てられなかったと思われます。場面設定を表す表現を、「あなたのお姉さんの名前は何ですか。」という既習のキーセンテンス(目標文)にあてはめると書きやすくなります。

●8年生（中2）

就寝時間と朝食摂取状況のグラフを見て、英語の長文内の空所に入る適当な英文を選択する問題は、グラフから情報を読みとる力と英語での表現力の両方が問われています。

いま求められている英語の学力は、文法に関する単純な問題が解けるだけでは不十分です。情報を正しく読みとり、自分の考えをまとめながら述べるのが、相手との豊かなコミュニケーションを生み出します。

自分の考えを英語で表すのよ！



最近、英語を使ったコミュニケーション力・会話力を身につける重要性がよく言われますが、正確で確実な文法力はけっして軽視できません。中学校で学習する文法は、英語を使ったコミュニケーション力の基礎となるものです。相手の意向を聞きとり、自分の考えを表現するためには、文法を着実に身につけなければなりません。

次年度のステップアップにむけて

英語をコミュニケーションの道具として使うため、質面の英語授業は音読が大切なんだね？



コミュニケーション力を高めるための英語の授業とはとくに音読の練習を重視することが大切

いまの中学校の英語の授業では、コミュニケーションの手段としての英語を使うという観点から、音声によるコミュニケーション力を重視しながら、4技能（「聞く」「話す」「読む」「書く」）の総合的なコミュニケーション力を高めていくことをめざしています。

ところが、保護者のみなさんの学生時代も含め、いままでの英語の授業は読解を中心に授業が行われてきました。そのため、授業中に英語を話す時間がほとんどなかったなど、英語そのものに触れる機会が足りなかったのです。

そこで、現在、英語の授業では、相手を意識した音読練習を多く取り入れ、英語を話す経験や機会を増やし、積極的に英語を話す態度を育てていくことが求められているのです。以下、授業で行われる、相手を意識した音読練習の方法を紹介します。

1 教科書の本文の読解を終えたあとに、本文を要約し音読する活動を行う

＜本文の要約＞

- ①本文の内容に関する英語で授業者が質問し、英語で生徒が答えます。これにより生徒は本文の概要を理解することができます。
- ②その後、キーワードを抜いた要約文を使い、空欄を埋め、要約文を完成させます。要約させることで、内容の理解がよりいっそう深まり、コミュニケーションの相手に対して、自信を持って話すことができるようになります。

2 音読練習は多彩な方法で行う

まず、クラス全員で読んでいきます（一斉リーディング）。このとき、大きな声で単語の発音、アクセント、文のリズム、イントネーションに十分注意して読みます。

次に4～5人程度のグループで、順番に生徒が1文ずつ読んでいきます（グループリーディング）。

最後に、2人一組のペアになり暗唱につなげていきます（ペアリーディング）。一人は1文を覚えたら、プリントから目を上げ、その1文を音読します。ペアの相手の生徒は、正しく英文が言えているかをチェックします。

3 自己表現につなげる

最後に、キーセンテンスに関する文を生徒たちに作らせ、要約文全体を暗唱させます。一般的に、生徒たちは、自分の考えていることをどのように英語で言えればいいかがわからないという理由で英語を話せないことが多いのです。ですから、音読の活動は、どのように英語を使うかを習得する一つの方法になるのです。

（まとめ）

■ 外国の人と出会っても、相手の考え方や文化のちがいや多様性を受け入れ、臆せず、英語でコミュニケーションをする表現力が、強く求められています。これから子どもたちが生きていく世界は、ますますボーダレス（国と国の境がなくなる）になりますし、日本国内でも外国人との共生が求められる社会になります。いくら英語が使えても、話す内容が伴わなければ、コミュニケーションは成立しません。英語を使えるようになる学習と多様性を受け入れていくことが今後の課題になります。

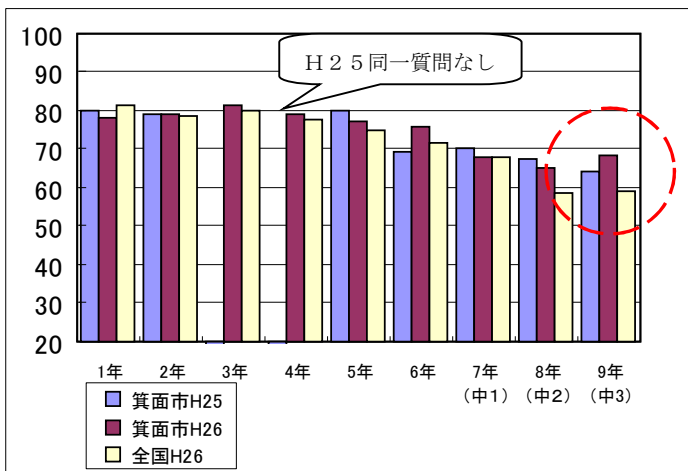
箕面学習状況調査・生活状況調査 〈概要〉

- 調査は平成 26 年 6 月と 12 月の 2 回実施し、箕面市の肯定率を全国と比較
- 回答は、「そう思う」「少しそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」の 4 つから選択
- 肯定率とは、選択肢の「そう思う」と「少しそう思う」の割合を単純に合計した値

【自己認識】 箕面っ子の自己肯定感は…

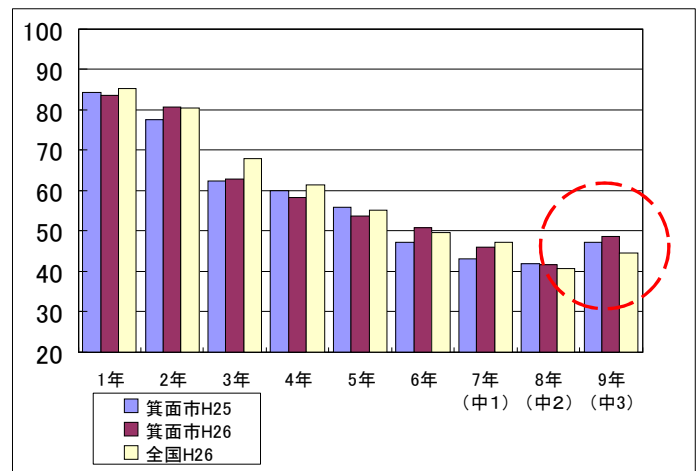
家族とのかかわり

◆ 本当につらいことがあったとき、それを家の人の誰かに相談できますか？



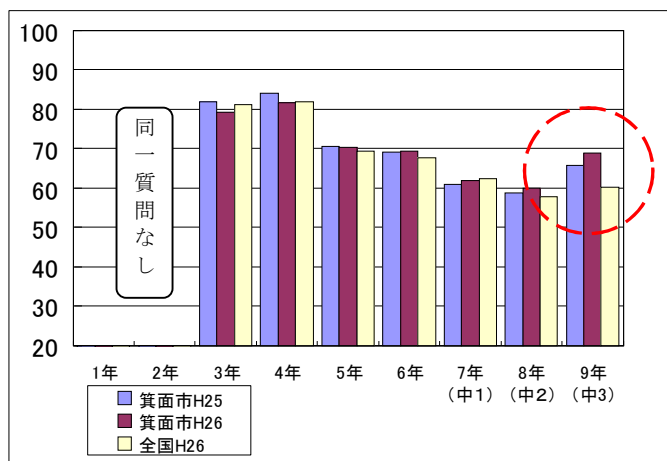
先生とのかかわり

◆ 本当につらいことがあったとき、それを学校の先生に相談できますか？

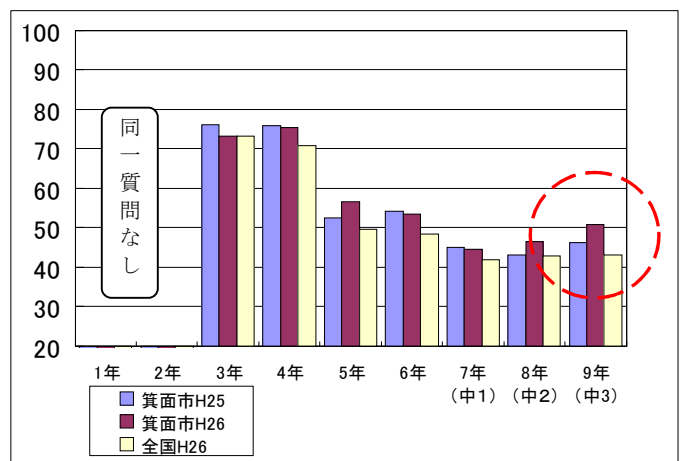


成功体験と自信

◆ 自分にはいいところがあると思いますか？



◆ 自分は先生から期待されているんだな、友達から頼りにされているんだなと感じることがありますか？

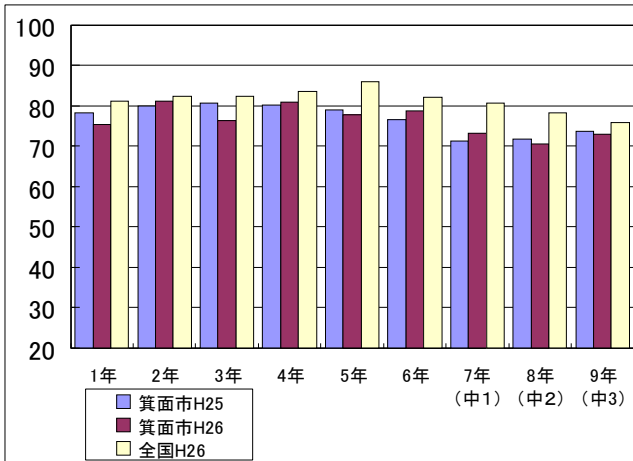


家族や先生に相談できるという割合は年齢が高くなるにしたがって下がっているね。ただ、H 2 5 に比べ、H 2 6 にはポイントが高くなっている学年が多いな。9年生のポイントが高くなっているね。

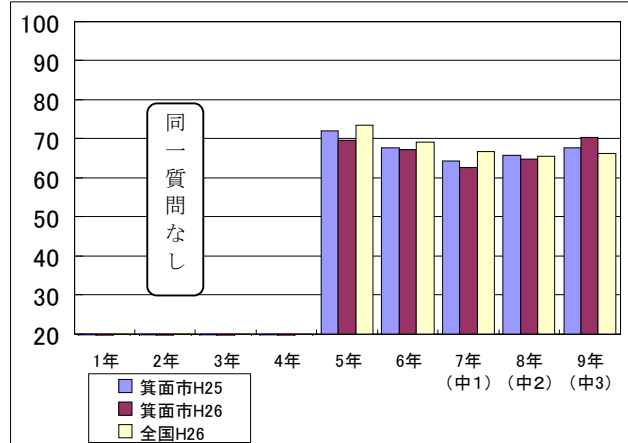


【社会性・規範意識】ソーシャルスキルは…

◆近所の人にあったときにはあいさつをしていますか？

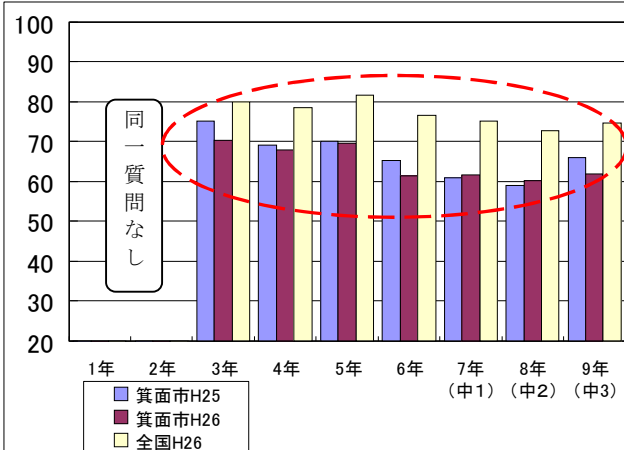


◆小さい子や、お年寄りが困っているときは迷わず手助けをしていますか？

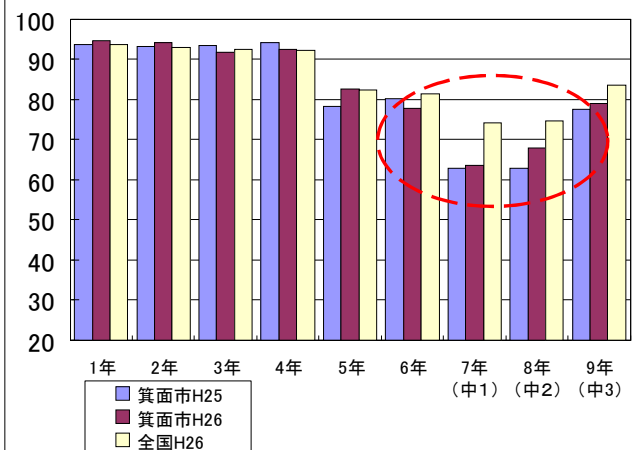


【学級環境】学級での規範意識は…

◆あなたのクラスでは、みんながそうじ当番や係の仕事、責任を持っていますか？



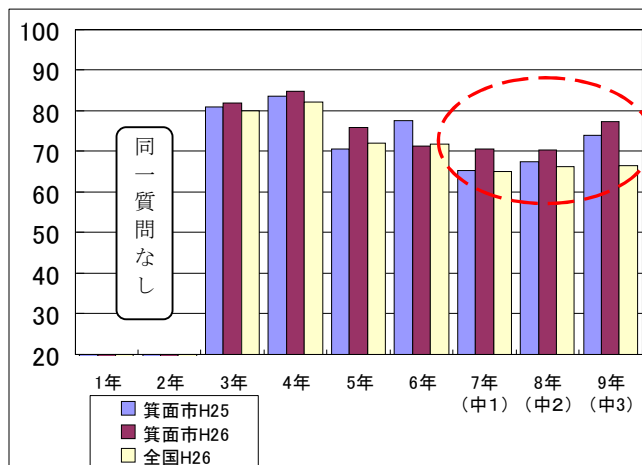
◆あなたのクラスにはみんなが先生の言うことを守っていますか？



箕面の子どもは社会性、規範意識が課題です。5年生からあいさつをするポイントが下がるなど地域・社会とのつながりが希薄になっていると考えられます。
学級での規範意識も、仕事に対する責任感は、全国に比べ全ての学年で低い傾向にあります。
今後とも引き続き社会的なルールを守る指導が必要です。

【学級の絆】仲間の意識は…

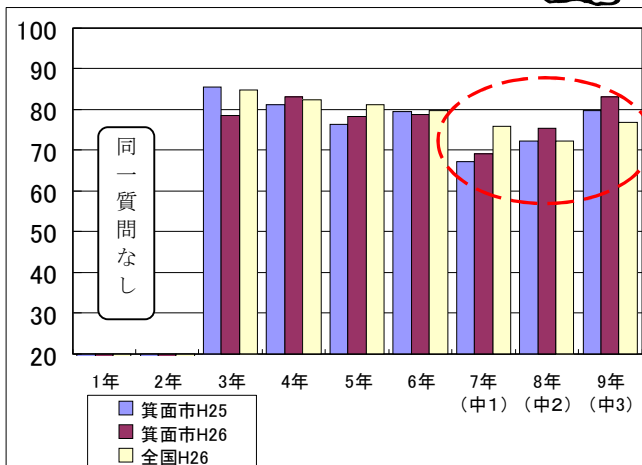
◆あなたはクラス全員の一人ひとりのいいところを言葉にして言うことができますか？



学級の仲間意識は、昨年より高いポイントになっている学年が多いな。

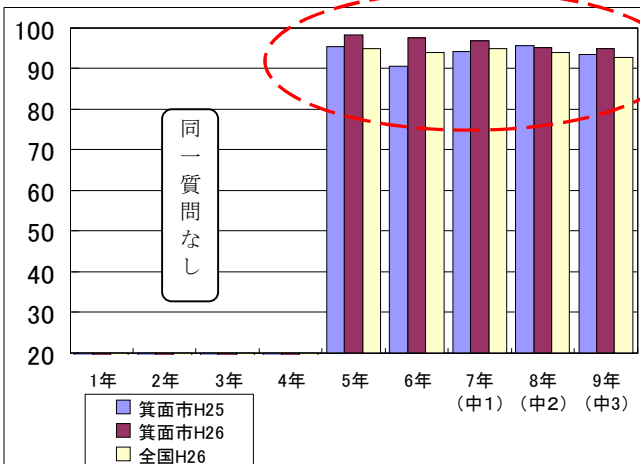


◆今のクラスが好きですか？

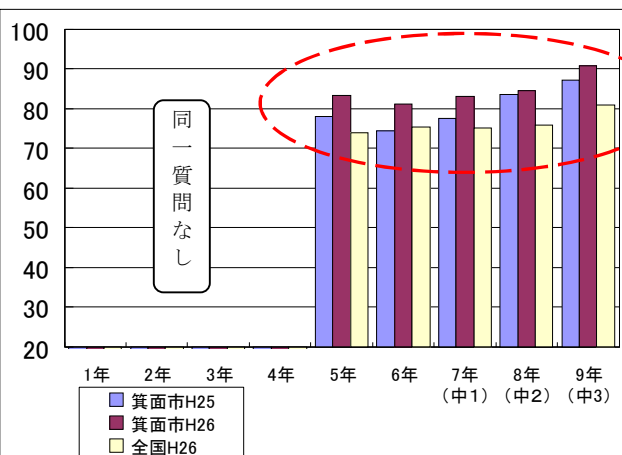


【対人ストレス】いじめのサインは…

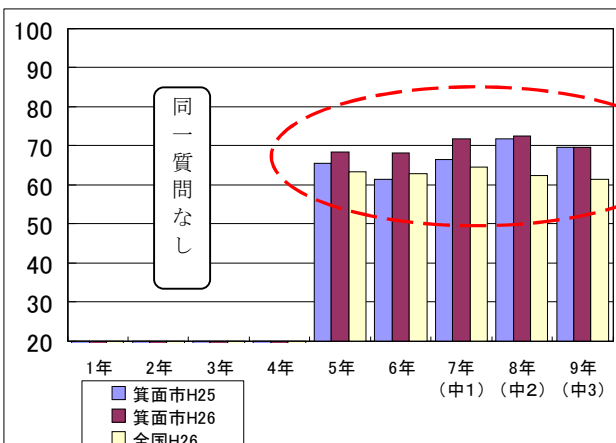
◆ネット上やケータイサイトの書き込みに、ひどいことを書かれ、傷ついたことがありますか？



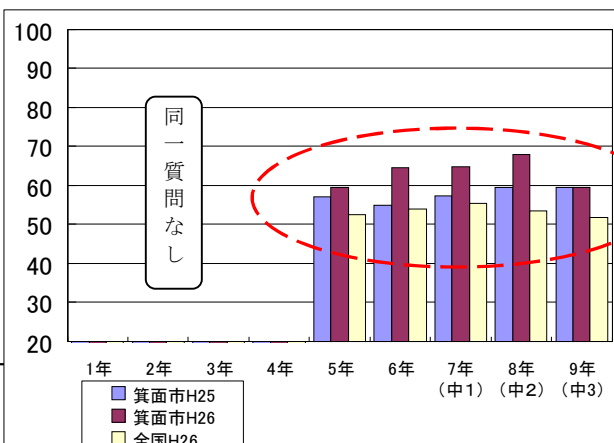
◆自分がいつ、いじめのターゲットになってしまうか、不安を感じることがありますか？



◆仲のいい友だちから自分がどう思われているか、つい気になってしまうことがありますか？



◆信じていた友達から思いもよらぬ言葉を聞かされたり、つらい態度をとられたりして傷ついたことがありますか？

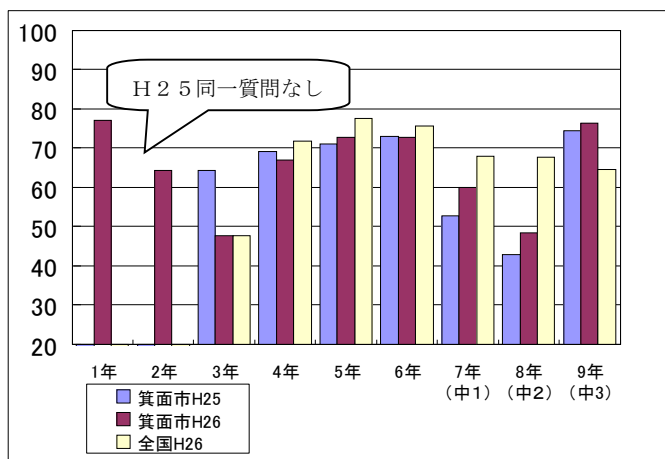


昨年と比べ、今年は対人ストレスが増えているね。いじめの不安を抱えている子どもの割合が急増しているのが心配だな。

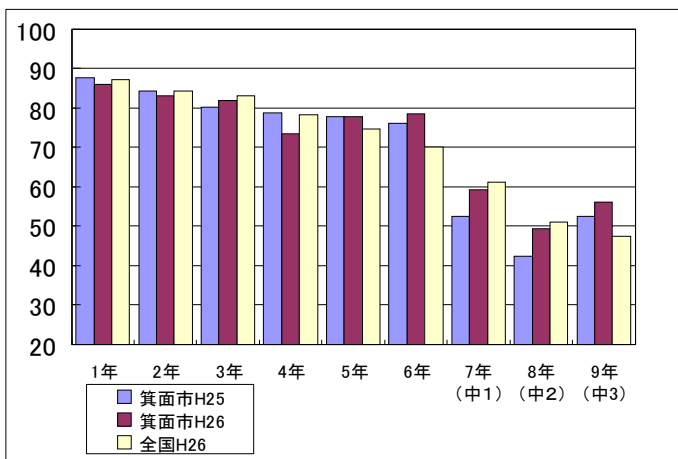


【生活習慣・学習習慣】

◆家で週に何日くらい勉強しますか？
（「ほぼ毎日」と「4～5日」を合計した数）



◆テストで間違えた問題は、後でやり直していますか？



家庭学習は箕面の子どもたちの課題です。しかし、学校で家庭学習ノートを作成するなどの工夫により、昨年と比べポイントが上がっています。

特に高学年からは自主的に学習する力がついてきています。

まとめ

- 「家族や先生に相談できるかという」質問項目のポイントでは、学年が上がるにしたがって低くなるものの、9年生において再び上がる傾向が見られました。自分にはいいところがある、周りから期待されている、頼りにされていると感じる割合も9年生で再度上がっていることがわかります。
- 社会性・規範意識の低さは学級でのルールにもつながります。地域の行事やボランティア活動に参加することで責任感や他者への思いやりが育ちます。学校だけでなく、家庭、地域社会とつながっていくことが求められます。
- 学級における仲間意識は、7年生で下がるものの、9年生に向かってまた上昇しており、成功体験、自己肯定感が大きくかかわっているものと思われます。また昨年より今年のポイントが高くなっており、学校での充実感が感じられます。
- 「ネットやケータイサイト書き込みをされた経験」や、「自分がいついじめのターゲットになるか不安を感じている」に関する質問項目では、各学年とも今年になって大きく増えており、子どもたちの中に対人ストレスが高まっていること、ネット社会が大きく関係していることが見てとれます。誰もが簡単にネットにアクセスできる現代社会において、加害・被害の立場にならないよう、諸機関とも連携し、ケータイのルールを決める、フィルタリングをかけるなど、家庭と学校がともに子どもたちを取り巻く環境にも注意をはらっていく必要があります。

